

「はじっこ」から・・・2009年1月

新しい年があげました。

今年はどんな年になるのでしょうか。暗いニュースばかりが耳に入ってきますが、前を向いて、面白そうなことをかぎ分けながら、楽しくいきたいと思いますので、宜しくお願いいたします

さて、今年は一念発起し、通信を出そうとささやかな決意をしました。そこで生まれたのがこの「はじっこから」。はじっこ好きの私（西山）が担当です。はじっこからちょっとひねくれて絵本の紹介などをしたいと思います。まあ、お付き合いください。

『子どもたちの遺言』



谷川俊太郎／詩 田淵章三／写真
1575 円

この本を開いた時、ちょっと胸がつまりました。老い先短い老人の遺言ではなく、子どもたちの遺言なんて聞きたくありませんもの。

谷川俊太郎が子どもたちの心の声を聴き取ってくれました。そして、語っています。「生まれたばかりの赤ん坊に遺言されるような危うい時代に私たちは生きている」と。この本の子どもたちの思いを私たち大人はちゃんと受け止めることができるのでしょうか。手にとって欲しい！一冊です。

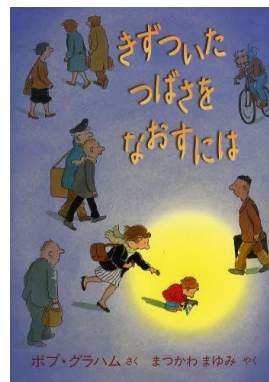
『ヘンリー・ブラウンの誕生日』



エレン・レヴァイン／作 カディール・ネルソン／絵
千葉茂樹／訳 1995 円

1800年代の中ごろ、本当にあったお話です。人が人として認められなかった頃、奴隷のヘンリーは誰も考え付かない方法で、自由への脱出を試みました。この話の重さにしばし言葉を失うくらいでした。どうかこの絵本も手に取ってください。

『きずついたつばさをなおすには』



ボブ・グラハム／さく まつかわまゆみ／やく
1365 円

都会のビルの窓にぶつかり傷ついた鳥。誰も気づかない都会のなかでウイルだけが気がつくのです。そして、当然のように助けてあげます。忙しそうにたくさんの人が歩いている中で、どうしてウイルだけが気づいたのでしょうか？

静かにしみいる絵本です。

『ヤカンのおかんとフトンのおとん』



サトシン／さく 赤川明／え
1365 円

沸騰しているヤカンのように怒ってばかりのおかんと休みの日にはグーグーダラダラと寝てばかりのフトンの中のおとんの話。でも、はたと気がついて反省する両親。とまあ、よくある話といえば、そうなのです。もうひとひねり欲しかったなあというのが本音です。

『おこる』

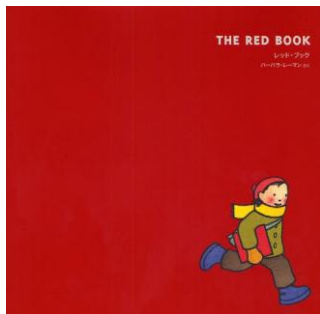


中川ひろたか／作 長谷川義史／絵
1365 円

これも「怒る」ことについての絵本です。うまいなあって思います。絵も文もさすがと思いつつ読みました。どうして人は「おこる」のか。「おこる」とどうなのか。怒られたくなくて、一人ぼっちになっちゃう場面がなんともせつなくていいですね。本当はこれももうひとひねりが欲しかったけど。

『ないた』（長新太・絵）と合わせて読んでみてください。

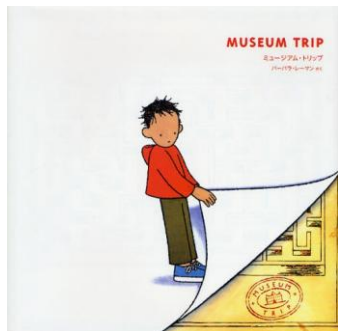
『レッド・ブック』



バーバラ・レーマン／さく
1365 円

文字のない絵本は、しんと静かに語りかけてきます。1冊の赤い絵本がもうひとつの世界に旅立たせてくれます。本って、本当に不思議ですね。たぶん中学生くらいから女の子は好きだろうなって思います。プレゼントされたら嬉しいね。先日テレビで見たことのある女優さんが自分のためについて、買っていかれました。

『ミュージアム・トリップ』



バーバラ・レーマン／さく
1365 円

これも文字のない絵本です。みんなからはぐれて、ひとりになると、美術館は不思議な空間になります。そう、まさに迷路にはまったのです。全然違うけど、やはり美術館に家出したカニグズバーグの『クローディアの秘密』をちょっと思い出しました。

『この世でいちばん大事な「カネ」の話』



西原 理恵子
1365 円

理論社の「よりみちパン！セ」シリーズ新刊

この「よりみちパン！セ」シリーズはかなりお勧めのシリーズです。この社会の有り様や物の見方などを鋭い感性をもった面々が執筆しているシリーズです。まさに今の時代を敏感に感じている中学生くらいからは是非読んで欲しいシリーズです。これは中学・高校の図書館には必ず揃えて置くべきと強く主張したい。そのくらいお勧めです。その40巻目。そう、40巻も出ているのです。

さて、お金の話はとても難しい。上手にスマートに子どもに伝えたいと思っても、お金です。結局現実は何もせぬまま、なにも教えられないまま子どもたちは大人になっていくのではないのでしょうか。目の前の大人を見ながら、なんとなく教えられていくのでしょうか、しかしそれは何も教えられていないことと同じ。

この西原理恵子の「カネ」の話はまさに生きたお金の話です。貧困と暴力に大きく影響された子ども時代、アルコール依存症だった父親、そしてギャンブル依存症で自殺した継父。壮絶な環境の中で彼女がみてきたもの。みえてきたもの。結婚後もアルコール依存症の夫との葛藤の日々。そして癌による死別。そんな本当に波乱万丈の人生の中でひとつひとつを自分で掴みとった彼女の言葉は、実に重いはずなのに、クールに客観的に分析し、おしゃべり口調で読みやすくわかりやすく、語りかけています。

「きれいごと」ではないお金の怖さを身をもって体験した彼女だからこそ見えてきた希望。そのことこそが本当は一番伝えたかったことなのだろうと思います。

『山田守くんはたぬきです』



市川宣子・作／飯野和好・絵
1260 円

山田守くんはじつはたぬきです。たぬき町に住むいきものを守るため人間の世界に紛れ込んでいるんです。山田君がきてからというもの町も学校もてんやわんや。市川宣子の作品で『ケイゾウさんは四月がきらいです』が大好きでこの作品も読んでみました。

それから、

『子どもに本を買ってあげる前に読む本』



赤木かん子／著
1470 円

「うーん、そうかそうだったのか」と頷くことの多かったこと。でも、これを読んで本を買うなんて……。そんな人いないだろうなあ。

「はじっこ」から・・・2009年3月

弥生三月、いよいよ春本番。と思ったら、雪が降ってきました。せっかく咲いた梅も寒そうでしたね。春はゆるゆると行きつ戻りつしながら、そこにいます。

さて、長谷川摂子さんの『とんぼの目玉』から、

『とんぼの目玉』



長谷川摂子
1785 円

私たちが普段何気なく使っている言葉の奥深い世界を色々な角度から光を当て、誘ってくれています。長谷川さんの文章は時に凜として、美しい。この「とんぼの目玉」というタイトルは北原白秋の童謡集「蜻蛉の目玉」からうかんだものようです。言葉というつかんでもつかんでも、つかみきれない生きものにとまろうとするとんぼを思い描き、生き生きと言葉の世界を飛び回る長谷川さんの言葉たち。時にクロスワードパズルの世界を遊び、言葉の海でイカダを組む。生まれ故郷の出雲弁を愛し、柳田国男を語り、若者言葉についてもユーモアたっぷりに語っている。私はどうやら「言葉」を喰って生きる奇獣の生まれ変わりらしいと語る長谷川さんは、やはりすごい。

『かえる ごようじん』



ウィリアム・ビー／さく たなかなおと／やく
1575 円

暗くて深い森の奥、ひとりのおばあさんが住んでいました。森の中には恐ろしい魔物が住んでいます。おばあさんの味方はかえるだけ。ところがこの小さなかえるときたら・・・。ページをめくるたびに、「えっ、あらら」と思っていたら、さあ大変、びっくりの結末にしばし唾然。絶句。ところがところが、おなじウィリアム・ビーの作品で『だから?』はもっとすごかった。

『だから?』



ウィリアム・ビー／さく たなかなおと／やく
1575 円

なにをしても無感動なビリー。おとうさんはビリーを喜ばせようといろいろ試みるのですが・・・。なんとも本当にびっくり！びっくり！の絵本でした。いいのかなあこの終わり方で・・・とみんなで話していました。とにかく手にとってみてください。「こんな子いるいる」と思うけど、でも、「だから?」

『しかめっつら あかちゃん』



ケイト・ペティ／文 ジョージ・バーケット／絵 木坂涼／訳
1470 円

まんまる顔でグッと睨んでいるような赤ちゃん。赤いほっぺがかわいいけれど、何をやっても笑いません。みんなが一所懸命笑わせようとあやすのですが・・・。『だから?』のビリーはすごい結末で、のけぞりそうになったけど、この赤ちゃんはかわいいね。どっちが印象に残るかって？そりゃあ、ビリーでしょう。まちがいなく。

『おいしいおと』



三宮麻由子／ぶん ふくしまあきえ／え
840 円

「みそしるを のもう ツスツッ クン ウィンナをかじったら クッ プワッ かぼちゃは モモッ ポフ ポフ ポフ・・・」 いっしょに食べているような、そんな感じがしてきます。ああ おいしかったと本を閉じるときの子どもたちの顔を見てください。きっと幸せそうですよ。

『狂言えほん うそなき』



内田麟太郎／文 マスリラ／絵
1260 円

狂言の演目『墨塗』をもとにアレンジされた絵本です。狂言えほんの5作目。ところで、うそなきしたことありますか？ たぶんみんなあるんじゃないかな1度や2度は。女の涙には気をつけろって、よく言うじゃないですか。そう「わたして、かわいそうでしょ」とヨヨと泣き崩れたりされたら、男の人は困るだろうなあ。そんなちょっと大人の世界を垣間見させてくれ、狂言の面白さも教えてくれる絵本です。小学生の子どもたちは盛り上がるかな？

『こくはくします』



もとしたいづみ／ぶん のぶみ／え
1260 円

告白を決意したはるなちゃんのまっすぐな思いに思わず応援したくなりました。が、作者のことばを読んで、興奮です。かわいい幼稚園児のふたりはなんと作家の方々のお子様をモデルに描いたとか。おいおい公私混同じゃないの、のぶみさん。そんな事は言わないほうがいいのになあ。

『ドリーム・ギバー』 夢紡ぐ精霊たち



ロイス・ローリー／作 西川美樹／訳
1365 円

まず、酒井駒子の装画に魅かれ手に取りました。闇の中の物憂げな少年。少年の柔らかな髪。閉じた瞼の奥で何を見つめているのでしょうか。気になりました。人間に幸せな夢を贈るドリーム・ギバー。その人の記憶のかけらを集め、夢を紡いでいくドリーム・ギバー。リトレストは何事にも興味しんしんで、元気いっぱいの新米ドリーム・ギバーです。ある時、父親から虐待を受け、母親に捨てられ、里親のもとを転々としていた少年ジョンと出会います。ジョンはひとりのおばあさんのもとに預けられました。傷ついたジョンをやさしくユーモアをもって、穏やかに受けとめるおばあさん。昼間の現実の世界ではおばあさんが、そして夢の世界ではリトレストが……。ところが、幸せを贈るはずの夢の世界の裏側には悪夢を吹き込むものも存在するのです。それは弱った心に取り付いて心の闇を支配しようとします。現実と夢が交差する世界。人は昼間の現実のみの世界に生きているのではないのです。夢は昼間の心のメッセージ。リトレストはジョンに生きる勇気を届けることができるのでしょうか。作者ロイス・ローリーの前作「ザ・ギバー 記憶を伝える者」こちらも是非読んでみて下さい。衝撃的な作品でした。

『のろのろひつじとせかせかひつじ』



蜂飼耳／作 ミヤハラヨウコ／絵
1260 円

タイトルをみただけで、なんとなく話の内容が浮かんでくるかも知れないけれど、それでも蜂飼耳さんの作品なので選んでみました。2匹のひつじののろのろぶりとせかせかぶりを蜂飼耳さんはどう描くのだろうかと。そしたら、やっぱり違いました。「草の葉にすずくがひかる朝や、おいしそうなきがのぼる夜をいったい何度むかえたのか…」こんな文章で書かれたら、読まずにはいられないでしょう。のろのろひつじとせかせかひつじのおかしなすれ違いは、それでもお互いを尊重しあいとてもいい距離感なのです。小学校の中学年くらいからいいかもしれないけれど、大人のあなたもいいですよ。

『いちねんせいのはる・なつ・あき・ふゆ』



おかしゅうぞう／さく ふじたひおこ／え
1575 円

トロール(<http://www.troll-ren.jp>) TEL042-392-5304

東村山市野口町 1-11-4

「はじっこ」から・・・2009年4月

わあーい、春だ、春だぞ。やっつ桜も満開になるぞ。

4月はなんだか不思議な月です。たくさんの小さな命が芽生え、そこそこで、もぞもぞと蠢いているようなそんな感じがして、何だか春は不思議です。ピカピカの1年生がランドセルをカタカタいわせて歩いていたりすると、つい声をかけたくなっちゃいます。『がんばって』ってね。

さて、2009年版ができましたよ。

『この絵本が好き！』2009年版



別冊太陽編集部
1200円

毎年前年に刊行された絵本の中からアンケートに基づいてベスト24冊の絵本が選ばれますが、その2009年版です。今年の第1位は・・・。自分がいいなあと思っていたのとはちょっと違いましたが、改めて去年一年間の絵本たちの顔を眺めてみるのも楽しいものです。トルでは『だるまさんが』、『100かいだてのいえ』、『ほんとおおきき動物園』が人気でした。それと個人的には『パパがやいたアップルパイ』や福音館の月刊誌0・1・2の『こりや まて まて』や『ぜろくんおとおり』『おおきい ちいさい』もよかったですね。BL出版の『ぼくのかえりみち』、クレヨンハウスの『リゼットとみどりにくつしたかたいつぼう』も好きです。また、こぐま社から『にんじんのたね』が復刊されましたが、これもうれしかったです。これはトルの関本もぜひ売りたいと気合の入っている絵本です。

『よぞらを見あげて』



ジョナサン・ビーン／作 さくまゆみこ／訳
1260円

薄闇のなかで洗濯物を取りこんでいるおかあさんと花に水をあげているわたし。静かに夜が訪れます。みんな寝室に入ってしまった、なんだか眠れない。ぱっちり目がさえてくるばかり。そんな時、優しい風が吹いてきました。そう、風に誘われ、枕をかかえシーツを持って、階段を上り……。待っていたのは……。なんと豊かな夜なのでしょう。世界がつながっていくのを感じられるなんて。せめてそのかけらを絵本から感じてください。

『ドーナツ だいこうしん』



レベッカ・ボンド／さく さくまゆみこ／やく
1470円

それは1個のドーナツからはじまりました。糸でつるしたビリーのドーナツ。にわとりが猫が犬がそれを追いかけて、そして、街中の人と一緒に踊りながら、歌いながら追いかけて。いつの間にかノレドが始まります。お皿やおもちゃやスプーンやハンパティ・ダンブティまででできます。その愉快なこと。幸せに満ち溢れた絵本ですね。

『つぽい』



ピーター・レイノルズ／ぶん・え なかがわちひろ／やく
1365円

ラモンは絵を描くのがだいすき。花瓶の絵を描いていたらおにいちゃんに「全然似てないじゃん」といわれショックを受けてしまいます。うまくなりたいと何度も描いては捨て、描いては捨て、一生懸命に似たような絵を描こうとしますが、なかなか思うように描けません。でも妹のマリソルがその絵を集めてくれたのです。(感激!)そして、教えたのです。(ああ、なんて素晴らしい妹なのでしょう)。『てん』や『ちいさなあなたへ』のピーター・レイノルズが伝える絵を描くこと、そして、体中で感じることのすばらしさ。いいなあ。

『あそぼ! ティリー』



ポーリー・ダンバー／さく・え もとしたいづみ／やく
1260円

かわいい絵本ははっきり言ってキライです。なんかうそ臭いから。そう感じる私はへそ曲がりですが、『あそぼ! ティリー』のかわいさは好きです。子どもが子どもでいられるようなそんな世界が描かれているから。子どもらしくて(らしさを強要してはありませんが)愛らしくて、天真爛漫な世界がありました。『あわせヘクター』もあります。いっしょにどうぞ。

『ミーちゃん』



オイリ・タンニネン／作 渡部翠／訳
777円

フィンランドを代表する絵本作家のシリーズ。『ミーちゃん』はオレンジと黄色と青と黒の色彩で描かれたシンプルな絵本です。くっきりとした輪郭で、どことなくディック・ブルーナを思い出させるような…。色紙を切りばりし、色鮮やかな絵本です。

『チューくん』



『ルルくん』



大きな犬のルルくんはおうちが小さくて困っています。そこへ小さな犬のムクちゃんがやってきて…。
3冊の中では『ルルちゃん』がしいかな。

『大きな木のような人』



いせひでこ／作 ジョルジュ・メリエ／監修
1680円

『ルリユールおじさん』の続編のような本です。続編のようなというのは、必ずしも登場人物が繋がっていませんが、木が繋がっています。パリに2本ある樹齢400年のアカシアの1本が『ルリユールおじさん』に登場し、そして、この『大きな木のような人』にも1本が登場します。

さえらはおじちゃんの誕生日にプレゼントしようと植物園の花を抜き取ります。しかし、そこで出会った植物学者からひまわりの種を貰い育て、植物園で働く人たちとも親しくなっていきます。さえらにとって植物園での日々はかけがえのないものになっていくのですが、ところが…。

静かに静かに語りかける木々に、草花に魅入られたいせひでこの世界が広がっている絵本です。淡い色使いで描かれた、優しいタッチの水彩画の世界はそれだけで、魅了してくれます。

以前、いせひでこの「グレイ」シリーズを読んで、(犬好きにはたまらない本でしたが)彼女の真摯に命を見つめる目に感銘を受けた記憶があります。グレイ(犬)の最期の生の一瞬、一瞬を克明に記憶しようといせひでこは奔走します。それは驚くほどにひたむきに。

ずいぶん古い本ですがジャニス・メイ・ユードリイの『木はいいなあ』という絵本があります。姉崎一馬の『はるこれ』という写真絵本もあります。木はそこにいるだけでたくさんの物語をつれてきてくれます。この『大きな木のような人』も心に残る物語をつれてきてくれました。メタセコイア、プラタナス、アカシヤ、アオギリたくさんの木が登場しました。

「人はみな心の中に一本の木をもっている」のだそうです。

『ファーディのはる』



ジュリア・ローリンソン／さく ティファニー・ピーク／え
木坂涼／やく 1470円

森に春がやってきました。子ぎつねのファーディが春を探しに果樹園に出かけていくと、ふわふわ、ひらひら、白いものが舞っています。雪…？と勘違いしたファーディはみんなに知らせにいきますが…。黄色を基調にした春の光いつぱいの絵本です。『ともだちからともだちへ』とおなじ絵です。なんだかほこほこのふわふわ絵本です

ちょっと前の絵本ですが、この時期おすすめしたい絵本です。

『ぜったいがっこうにはいかないからね』



ローレン・チャイルド／作 木坂涼／訳
1365円

かなり強烈な妹とそのおにいちゃんの話。もうすぐ学校に行く妹にいろいろおにいちゃん学校行きをすすめようとするのですが…。すごいんだな、この妹は。ねじめ正一の『わがままいもう』とおなじでおにいちゃんはどこも大変だね。

トロール(<http://www.troll-ren.jp>) TEL042-392-5304

東村山市野口町 1-11-4

「はじっこ」から・・・2009年5月
まず、お知らせから・・・

5月19日 (午前11時：午後3時半)

「こがようこのおはなしおやつ」が行われます。



もちろん **トロル** でやります。

こがようこさんは語り手であり、絵本コーディネーターでもありません。図書館や保育園、小学校・中学校など各種施設でお話の出前をしてくれています。また、絵本と昔話を運ぶ手配り新聞「サマーサンタクロース」も発行しています。

小さな子どもたちはもちろん、大人にも楽しめるようなそんなお話会をしてくださいなようです。

どんなお話がとびだすか、**楽しみ、楽しみ、・・・♪♪♪**
どうぞ、遊びに来てくださいな。

さてさて、こんな子どもの本案内書が出ました。

『幸せを運ぶ 絵本&児童書 300冊』



日経キッズプラス 編集

980 円

年間3000冊以上出版される子どもの本の中から子どもと一緒に楽しめる本を紹介。ちょっと面白い視点から編集されているので、絵本選びの参考になると思います

《音に関する絵本が2点》

『でんしゃはうたう』



三宮麻由子／ぶん みねおみつ／え

840 円

電車の音は「がたんごん」だけではないのですね。

「たたっ つつっつ たたっ つつっつ どどん

たたっ つつっつ たたっ つつっつ どどん」

ちょっと読みづらいけど、確かに電車が走っているような、本当に電車に乗っているようなそんな気になる絵本です。周りの景色も楽しみながら、出かけた気分になれますよ。

『どんなおと』



tupera tupera／さく

914 円

こちらは「てをたたいたら どんなおと? りんごをかじったら どんなおと?」という音を質問しています。日常の音だけではなくて、わにの歯ぎしりやむかでの拍手の音までもたずねています。想像してみてください。ちょうちょが羽根を閉じる音を。最後はよくわからなかったけど、というよりいらないのでと思いますが、しばし目を閉じ、耳をすましてみてください。

『オルガ ストロングボーイTシャツのはなし』



イリヤ・グリーン／作 ときありえ／訳

1260 円

ストロングボーイTシャツはすごいパワーがあるのです。なんたって、これを着るとどんな弱虫だって、強くなれるんですもの。ところがところが、みんながこれを着たら、どうなるか? いばりんぼうばかりだったら、どうなるか? いつも、懸命で、おかしくて、かわいい子どもたちがいっぱい。絵も愉快で楽しくって、思わず笑ってしまいました。こども万歳。

『いま、なんさい?』



ひがしちから／作

1365 円

5歳の誕生日のゆきちゃん、みんなに自分が5歳になったのをしているか確かめてみました。ところが、誰も、まともに答えてはくれません。だじゃれもダイナミックな絵も楽しい絵本です。5歳の誕生日プレゼントにいかがでしょうか? 『ぼくのかえりみち』と同じ作家です。

『ひみつのカレーライス』



井上荒野／作 田中清代／絵
1470 円

カレー大好き一家のおかしなおかしな絵本です。第一、絵本に漂う空気がただものではない。なんでこうなるの???と思ひながら、不思議な世界にひきこまれてしまいました。「トマトさん」「ねえだっこして」の田中清代さん。私、結構好きだなあ。

『ゆうちゃんとめんどくさいサイ』



西内ミナミ／さく なかのひろたか／え
840 円

朝、パジャマのまま歯も磨かずにいると、牙が生えてきました。すると、「オオカミの子におなり」とお母さんにいわれてしまいました。そこで、オオカミのところいき……。何をしても面倒くさがるゆうちゃんが行き着いたところはなんとめんどくさいサイのうちでした。そこは散らかり放題。何をしても面倒くさがるのに、大人に指示されるのは嫌なゆうちゃん。共感する子は多いんじゃないでしょうか。

『まるまれアルマジロ！ 卵からはじまる5つの話』



安東みきえ／作 下和田サチヨ／絵
1575 円

『頭のうちどころが悪かった熊の話』から2年ぶり。「オケラのお月見」「オオカミの大きなかんちがい」「ハゲタカの星」など卵からはじまる5作品が収録。オケラの一家にもオオカミにもハゲタカにもそして心配性のコウノトリにもアルマジロにも、それぞれに人生を語らせています。悲しみの中に、おかしさがあり、おかしさの中に悲しみがある。なんか、人生だなあ、なんて思えてきます。しみじみと……。

「オケラのお月見」は世界を知りたがるオケラの子の話。土の中で暮らす彼らは父親の用心深さをしりつつも、外の世界を知りたいと迫る。そこでみたものは……。

「ハゲタカの星」は生まれてはみたものの、情けない親の姿に落胆させられるハゲタカの子の話。カムリクマタカの子にも父の姿をばかにされます。クマタカの父の実に堂々とした姿。太い首をまっすぐにのびし、獲物を探す猛々しい目。それに比べてハゲタカの父親は狩をしないばかりか、死にそうな動物を付回し、その動物の命がつきるのを待って、浅ましくとびつく。もし草原からハゲタカがいなくなったら困るのはわかっている、ハゲタカの子は父親とは別な自分を目指そうとします。すると、そこへハイエナがやってきて……。

小学校の高学年から親子で楽しめそうな作品です。でも、親子で一緒に楽しめたからって、くれぐれも感想を述べ合うなんてことはしない方がいいなあ、なんて思います。お互いにふんふんって思っていればいいのよ。なんてね。

『あの庭の扉をあけたとき』



佐野洋子／著
1260 円

佐野洋子のファンタジー小説。ふと思い出したのがフィリパ・ピアスの『トムは真夜中の庭で』でした。庭とおばあさんとそのおばあさんの少女の頃に出会うわたし。お互い似たもの同士の強情な自分。強情ゆえのせつなさ。鋭いユーモアと力強さの佐野洋子の作品はです。

『阿修羅のジュエリー』



鶴岡真弓／著 100%ORANGE／装画・挿画
1575 円

今、東京国立博物館で、「阿修羅展」が開催されています。観にいった人もまだの人も再認識させられる一冊です。教えられた見方ではなく自分の目で観察することから始めましょう。

トロール(<http://www.troll-ren.jp>) TEL042-392-5304

東村山市野口町 1-11-4

「はじっこ」から・・・2009年6月

六月の声をきくと、今年もうすぐ半年過ぎるんだなあと、妙に感慨深くなってみたりします。ついこの間お正月を迎えたばかりのような気がするのに、本当にあつという間です。六月のトルルはひたすら走り回っています。いよいよ研修会が目白押し。全国を追われるように飛び回り、出張なのに「今度はどこに旅行？」なんて家族に聞かれるスタッフもいます。また、近くではそろそろ「菖蒲まつり」も始まります。中高年のおばさん、おじさんが団体でお店の側を通り過ぎていきます。その賑やかなこと。アラ還世代の逞しさを実感させられる時期でもあります。

そんなアラ還世代もかなわない赤ちゃんの絵本です。

『こんにちはあかちゃん』



ムム・フォックス／文 ヘレン・オクセンバリー／絵
1365円

あかちゃんのちいさな手、やわらかなほっぺ、まあいあごのライン、ぷよぷよのおしり、すべすべの肌、手のひらにすっぽりと収まる小さくてかわいい足、おっぱいの匂い、柔らかな囁き。肌の色が違って、生まれたところが違って、あかちゃんはいかなくて愛おしい。そんなあかちゃんの絵本です。「きょうはみんなでくまがりだ」や「3びきのかわいいオオカミ」のヘレン・オクセンバリーの絵は、柔らかなやさしい色使いです。

『とつても とつても あいたいの』



シムズ・タバック／作 木坂涼／訳
1365円

遠くにすんでいる人に会いたくなったら、どうする？とつてもとつても会いたくて仕方がないときはどうしよう。そんな人はこの絵本をどうぞ。カラフルで遊び心いっぱいイラストで楽しくなりますよ。「ヨセフのだいじなコート」や「これはジャックのたてたいえ」、「ハエをのみこんだおばあさん」のシムズ・タバックの絵本はどれもおすすめです。

『おおきなたまご』



M. P. ロバートソン／作・絵 ささやまゆうこ／訳
1365円

ある朝ジョージはメンドリが暖めているたまごをみてびっくり。さっそくその卵を暖かい自分の部屋に移して、三日三晩お話を読んで聞かせました。すると、卵の中から出てきたのは・・・。びっくりさせられたり、ほろっとさせられたり、愉快でダイナミックな絵で、お話も楽しめますよ。

『モモのこねこ』



やしまたろう・やしまみつ／作 やしまたろう／絵
1470円

八島太郎という絵本作家をご存知でしょうか？戦前、精力的に反戦運動をつづけたため、逮捕、拘留され、1939年日本を逃れ渡米し、ニューヨーク美術大学に入学し、アメリカの戦時情報局で日本人向けの反戦宣伝物を製作していた人です。戦中戦後の日米の間を波乱万丈に生きた八島太郎。彼の作品はそれ故に胸を打ちます。

この『モモのこねこ』は八島太郎生誕100年記念で復刊された絵本です。

モモは道ばたでみすぼらしい子猫を見つけました。家に連れて帰るとみすぼらしい子猫はうつくしい猫になり、やがておかあさんになりました。そんなお話です。でもなんて豊かな世界がそこにあるのでしょうか。子猫とともに成長するモモの姿をのびやかに描き、生命の喜びに溢れた絵本のような気がします。

また、八島太郎の他の作品の『からすたろう』『あまがさ』『海浜物語』の三作がコルデコット賞の次席となりました。

もう20年くらい前でしょうか、子どもの学校の先生にこの『からすたろう』をプレゼントしたことがありました。その先生は珍しく話の通じる先生でした。だから、ぜひ『からすたろう』を手渡したかったのです。この絵本は学校でなにも覚えられず、のけものにされた「ちび」の少年の話です。偉そうですが、すべての教師に読んで欲しいと思う一冊です。いや教師だけではありません。みんなに読んで欲しいなあって思います。

『からすたろう』です。どこかで出会ったら、手にとってくださいね。

『きみが選んだ死刑のスイッチ』



森達也／著 100%ORANGE／装画・挿画
1365 円

ところで、なんだか訳も判らぬうちに「裁判員制度」が始まりました。マスコミであれこれ報道していますが、他人事のようにしか聞こえてきません。どうして、こんな制度が始まったのか、いつの間にか知らない間に・・・という感じです。本当は立ち止まって「待てよ！」と考えなければならぬのでしょう。

そこで、この本をおすすめします。

マスコミが報道している「裁判員制度」。これはいろいろな情報を整理し、できるだけわかりやすく伝えようとしているのだと思いますが、森氏は語っています。「わかりやすさに気をつけよう。現実には単純ではない。とても複雑で多面的だ。ひとつの情報ができあがるまではその過程でとてもたくさんの情報が、刈り込まれたり切り捨てられていると考えてほしい」と。本当にそうだと思います。私たちの見えないこと、気づかないことが実はたくさんあって、物事はそう単純ではないということだけでも頭に入れておかなくちやと思います。

この本は「罪と罰」「冤罪」「裁判員制度」「死刑」の4つの章に分かれ解説されています。学校のホームルームから考える社会のルール。そこから見えてくる司法制度や権力について。ふだん私たちの日常生活からかけ離れているようだけど、決してそんなことはない現実。時代や場所によって法も変わります。そして、とても曖昧な私たちの意識。現実には冤罪で苦しむ死の恐怖におびえる日常をおくっている人もいます。人を殺してはいけないはずなのに、国は死刑制度という法律で、死刑を執行しています。森氏は最後にこう結んでいます。「人はそれほど賢くはない。いつも正しいことをしているわけではない。でも人はいつかまちがいがいづく。きっといつかは変わる。僕はそう信じている」と。そう、本当にそう思います。

ちょっと硬くなったので、・・・。

『ちょうになったぞう』



佐々木マキ／作・絵
1050 円

きれいなちょうになりたいと泣き出した象に、カメレオンおじさんが教えてくれました。「お花畑に寝転んで、ちょうになりたいぞうちょうになりたいぞう・・・」と5回唱えてごらんと。すると・・・最後がおかしい。おもわず笑ってしまいました。

『あら、たいへん！ こんなじかん』



おおしまたえこ／作
1260 円

古くて大きな家の屋根裏部屋に、使われなくなったおもちゃたちがひっそりとくらしていました。お人形のくるみちゃんはそんなみんなの世話をしていました。「あら たいへん こんなじかん」といながら大忙しです。不思議で楽しくて、ちょっぴりほろっとした絵本です。

中国のむかし話より

『むかしむかし とらとねこは・・・』



大島英太郎／文・絵
1365 円

昔とらは今と違って、のろまで獲物を捕まえるのがとても下手でした。一方猫はずばしこくて上手に獲物を捕まえました。そんな猫を見て、とらはいつもうらやましく思っていました。そこで、とらは猫に上手に獲物を捕まえる方法を教えてほしいと熱心に頼みました。さて、どんな方法を教えてもらったのでしょうか？ 秘密の方法です。

『いらっしやいませ』



ふくだいわお／作

おめかししてお客さんをおでむかえ。いろんなお客さんがきましたよ。最後に来たのは誰かでしょう

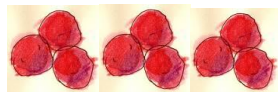
『わらってる わらってる』



714 円

「こっちむいて」っていったら、にっこりふりむいてくれました。みんなの笑顔が一番だね。おもわず私もにっこりです。

「はじっこ」から・・・2009年7月



先日、「梅仕事」をしました。入梅前に青梅で梅ジュースを作ったのですが、今度はなんと15キロの梅干用の梅がやってきたのです。早速ざるの上に並べて、ころころとした青い梅を眺めてみました。顔を近づけると馥郁とした香りに包まれ、なんと幸せなことかと思わずうっとりしてきました。梅は観てもよし、嗅いでよし、食べてもよしの本当にありがたい存在です。その梅が、一日ごとに黄色く色づいて、部屋中に梅の香りを放っていきま。そして、「早く漬けて」といわんばかりに色づいた頃、いよいよ梅干作りがはじまります。梅を洗い、ひとつひとつへたを取って、今年はどうな梅干になってくれるのか楽しみにしながらの作業。しばらくの間カビに用心しながら、毎日家に帰るたびに梅のご機嫌を伺っています。うっとうしい梅雨に「梅仕事」をするのは先人たちの知恵に支えられている、そんな気がします。

さて、新刊です。

『ピアノは夢をみる』



工藤直子／詩 あべ弘士／絵

1260 円

工藤直子さんちにやってきたドイツはノイマン社のピアノ、「ノイマンじいさん」が語りかけます。あるまぶしい朝、あそびにきたかぜと、まどからのぞきこんだくもと。ごつごつとしたピアノは夢をみます。あべ弘士の絵がそれに息を吹きかけ、工藤さんの世界も広がりました。

『おうまさんしてー』



三浦太郎／作・絵

1050 円

こどもはおうまさんごっこが大好きです。背中に乗ってパカパカしていると、本当にうれしそうに乗ってます。そのおうまさんごっこの絵本です。くまさんやぞうさんと乗って最後に乗るのはだれでしょう？私のはてつきりお母さんかと思いましたが、違いました。

『はなおとこ』



ヴィヴィアン・シュワルツ／作 ジョエル・スチュアート／絵

ほむらひろし／訳

1365 円

世界のどこかに自分にぴったりの場所があるに違いないと旅に出る「はなおとこ」の話です。シュールな絵が独特の世界をかもし出しています。大人も子どもも楽しめる世界です。中学生にもいいのではないかと思います。

『ロシアのわらべうた』



K. チュコフスキー／編 Y. バスネツォフ／絵

1470 円

ロシアを代表する児童文学作家チエコフスキーが集めたロシアのわらべうた22編。その中の一編です。

ヤギ

大ツノのヤギ のしあるく
ツノをふりふり のしあるく
ヒツメをカツ、カツ！
めだまを ぎよろり
おかゆをたべない子はどこだ
ミルクをのまない子はどこだ
つくぞ つくぞ このツノで

ユーモアたっぷりのこんなわらべうたに Y・バスネツォフ(ロシアの画家)が、いかにもロシアという感じで描いています。ひとつひとつのわらべうたがお話になっていて、短編集風でもあり、愉快でちょっとブラックな世界も楽しめます。もうひとつ

イワーヌシカ

ワーニヤ、ワーニヤ、ワーニヤちゃん
ワーニヤったら おばかさん
ワーニヤったら しょうがない
しっぽのない馬 かってきて
うしろまえに またがって
畑にむかって はいどうどう！

『絵本の本』



中村 稜子／著
1470 円

「かわいい」絵本はどうも苦手と思っていたら、この「絵本の本」が答えをくれました。なんとなくぼんやりしていたことがそうかやっぱりと顔かせてくれました。

世の中には「かわいい」絵本が好きな方が多いので、なんで・・・？と思われるかもしれません。かわいい子どもたちには、やはりかわいくてきれいな絵本を与えたいと思っているおとなは多いと思います。現に「きれいな絵の絵本はありますか？」と尋ねられることがあります。世の中の醜いもの、汚れたものから子どもたちを遠ざけたい思いはわかりますが、・・・。

いつもニコニコ元気で明るい子どもなんていませんよね。泣いたり、怒ったり、時にはうそをついてみたりやきもちをやいたり、妬んだり、いけないと知りつつ友達をいじめたり、おとなと同じようにそんなこんないろんな思いの中で、子どもたちは必死で生きていると思うのです。もしかしたらおとな以上に懸命に。そんな子どもたちに寄り添うには、かわいいだけの絵本では、満足してくれません。そんな「かわいい」とか「かわいくない」絵本に関することやまた、昔話や科学遊びの絵本についても触れています。

また、日々の暮らしの中でみつけた不思議なことや驚いたことを絵本が糸口となって解明してくれたこと。子どもたちは読んでもらった絵本をいとも自然に、巧みに暮らしに取りこんでいくこと等々。そんなひとつひとつのことを保育の現場で長年子どもたちと楽しんできた著者が、絵本についてのおもしろさ、魅力をいきいきと語っています。保育に携わっている人は勿論、子どもと絵本について考えてみたい人はぜひ読んでほしい一冊です。

『ソフィー ちいさなレタスのはなし』



イリヤ・グリーン／作 ときありえ／訳
1260 円

「オルガ ストロングボーイ T シャツ」の続編。

一番小さなソフィーもみんなと一緒に、レタスの種をもらって植えました。ところがところがみんなのレタスはちゃんと育っているのに、ソフィーのレタスは・・・何も育っていません。そこで考えたことは・・・。このソフィーのような子が身近にいたら、きっと「だめでしょ！」って、怒り出すかもしれないけど。(一応大人として)でも、やっぱりかわいいのですよ。こんな子いると思えてきますよ。イリヤ・グリーンの描く子どもたちはみんな大好きですね。

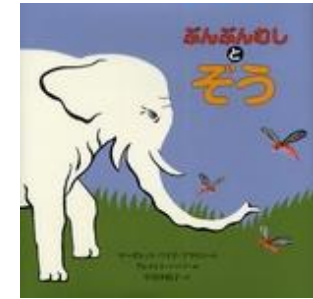
『ないしょのおともだち』



ビバリー・ドノフリオ／文 バーバラ・マクリントック／絵
1680 円

バーバラ・マクリントックの前作『シモンのおとしもの』も好きでしたが、この『ないしょのおともだち』も最後に思わずニンマリでした。絵本っていいなあって思える一冊でした。静かに流れる時の移り変わりや出会い、大げさに言えばそんなことが底流にあって、絵も細部まで楽しめて、小間物好きには結構楽しめて、それに何たって「ないしょ」というのがいいですね。プレゼントにいかがですか。

『ぶんぶんむしとぞう』



マーガレット・ワイズ・ブラウン／作 クレメント・ハード／絵
1260 円

大きいものと小さなもの。そんな二つを対比しながらゆっくりとページをめくる。なんだかとても豊かなキモチになってくるような気がします。リズムカルなワイズ・ブラウンの文章、落ち着いた色使いのクレメント・ハードの絵。いいですねえ。繰り返し繰り返し楽しめそうです。

『むしむし でんしゃ』



内田麟太郎／文 西村繁男／絵
1365 円

『がたごと がたごと』や『おぼけでんしゃ』について第三弾。なんとまあ、予想外の登場人物にニヤリ。つつい隅々まで見てしまえます。どうしてこうも不思議でんこもりの世界に引き込まれてしまうのでしょうか。

「はじっこ」から・・・2009年9

夏と秋が日ごとに入れ替わっているようなそんな日々です。今年の夏は冷夏ではなかったけれど、日照時間が少なかったとか。確かにギラギラと照りつける太陽も入道雲もどこかへいってしまったような、大切なものを忘れてしまったような、そんな夏でした。

ところで、トロールのスタッフ室岡が産休に入りました。うふふ、もうすぐ、ママになります。

『願いごとの絵本』



ローズアン・ソング／文 エリサ・クレヴェン／絵
1680 円

世界のさまざまな願かけの方法を紹介しています。願いごとがあったら、どんな風にお願ひしていますか？例えば日本だと、七夕の日に短冊に願いごとを書いたりするけど、世界にはいろいろあるんですね。ロシアでは銅貨を貰ったら、靴の中に入れておくそうです。イランのお正月は7つのものが欠かせません。ローマはトレビの泉が有名です。またインドでは孔雀の羽に願いごとを託すそうです。世界中のそんな方法を「おひさまパン」を描いたエリサ・クレヴェンがまたまたきれいで、華やかで、楽しい絵本に仕上げてくださいました。隅々まで楽しめます。

『大きな大きな船』



長谷川集平／作
1260 円

「父さん、ぼく父さんに母さん役までやってほしいと思わないよ。父さんは父さんでやってくれたらいい。……………うまく言えないけどさ」
こんな書き出しで始まり、父親の運転する車に乗って、どこか遠くを見ている少年。ぎこちない父と子。時代という大きな船に乗って、翻弄されながらも、すれちがうふたりが少しずつ少しずつ近づいていく。

長谷川周平の本はいつも気になって手にとっています。どこか切なくて、脆くて、それでも、大切なものをちゃんとしまっていて、そんな感じのする絵本です。

常にこんなことが書いてありました。大家族、核家族、ふたり家族……いろいろな形の親子がいます。形は違っても、ごくふつうでも、ぜんぜんふつうじゃなくても、この「おとうさんだいすき」シリーズをまんやかに、親子いっしょにすごしてくれたら……って。……そうかなあ、この絵本を親子で読むのって、ちょっと照れるぜ。という気がするけど、でも、やっぱり長谷川周平がいっぱい詰まった絵本です。

この絵本は青と赤と黄色の3色だけで描いたそうです。そこからひろがるいろんな色の世界も楽しめます。

『おとうさんのちず』



ユリ・シュルヴィッツ／作 さくまゆみこ／訳
1575 円

自伝絵本。ユリ・シュルヴィッツが4歳から5歳頃のお話。戦争で何もかも失い、たどり着いた先は夏は暑く、冬は寒い東の国。小さな部屋でよその家族と暮らし、本やおもちやはもちろん、食べ物さえ不自由なくらしてました。そんな中でお父さんは大切なお金でパンを買わずに、世界地図を買ってきたのです。ぼくもおかあさんもお腹がぺこぺこだったのに。でも…………。

『おいで、フクマル』



くどうなおこ／さく ほてはまたかし／え
1470 円

トロールで毎年扱っている「のはらうた」カレンダーのおふたりが作った絵本です。おいで、フクマルと僕を呼んでくれたのはだれ？誰もがみんな、生まれてきたことを喜びあいたい。そんな絵本です。おいで、〇〇ちゃんってね。プレゼントこいいですよ。

『コウノトリはどこへいく』



アンドレア・ペトルリック・フセイノヴィッチ／作
1575 円

絵がすてきです。
油えのぐで描かれたたくきりとして、カラフルな世界。
戦争で住処を奪われたコウノトリ。闇夜を飛ぶコウノトリの悲しみ。
そして新しい住処をみつけたひまわり畑のコウノトリたち。
とにかく絵が美しいです。

『いつか空の上で』



アンドレア・ペトルリック・フセイノヴィッチ／作・絵
1575 円

『コウノトリはどこへいく』とおなじアンドレア・ペトルリック・フセイノヴィッチの作品。
母を亡くし、心を閉ざした少女の話。重いテーマですが、空の青さがこんな風に悲しみを表現しているのかと意外でした。
やはり絵が美しいですね。

『がまんのケーキ』



かがいひろし／作絵
1050 円

け、けろこさん、ぼくたち まけそうです・・・
こいたろうさんとかめぞうさんは、ケーキを前に負けそうです。
こいたろうさんはもう、でろでろ。必死でなだめるかめぞうさんもかなり辛そうです。買い物に行ったけろこさんを待てるでしょうか？うーん、睫毛の長いけろこさんの色づまいこと。

『げんきでいるからね』



鈴木まもる／作・絵
1365 円

さっきのフクマルと同じような犬の絵本です。でも、はっきり言って、『おいで、フクマル』のほうがずーっと、よかった。犬の表情ひとつひとつがまるでそこにいるようなフクマルなのに『げんきでいるから』のポケ(犬)はちっとも元気がないんですもの。もっと、はじけたらいいのになって思いました。

『ザグドガ森のおばけたち』



やえがしなおこ／文 大野舞／絵
1365 円

著者の前作『ペチカはぼうぼう猫はまんまる』はよかったです。「ペチカはぼうぼう猫はまんまる。おなべの豆は、ぱちんとはじけた」と不思議の世界に導いてくれる語り口。独特の世界が広がって、面白くて好きだったけど、『ザグドガ森のおばけたち』ちょっと・・・。次に期待します。待ってます。

東村山在住の絵本作家やべみつのりさんの

『紙芝居絵日記』(1200 円)

トロールで扱っています。

やべさんといえば、なんとって『かばさん』(こぐま社)ですが、この『紙芝居絵日記』には、やべさんの暮らしと紙芝居にかける情熱がそこここにほとばしっています。どこか懐かしくて暖かいやべさんの絵。紙芝居に関心のある方は、必見です。

トロール 東村山市野口町 1-11-4 TEL042-392-5304
<http://www.troll-ren.jp> (文責 西山)

「はじっこ」から・・・2009年11月

朝晩めっきり冷え込んできました。毎朝6時半ごろから犬の散歩に出かけるのですが、晴れた朝は富士山がくっきりと姿を現してくれようになりました。新青梅街道の多摩六都科学館そばの交差点あたり。おススメ絶景ポイントです。忙しく仕事に向かう車の流れのそばで、犬の足を止め、しばし眺めています。

深まる秋にかわいくて楽しい一冊です。

『はっぱをつかまえて!』



オーレ・クネツケ/さく ささきたづこ/やく 1470円

アントンはひとりで庭掃除。葉っぱの山ができたと思ったら、一枚の葉っぱがひらーり、ひらひら。あれ、逃げられた。そして、ブランコに乗っていたルーカスのそばを、ひらーり、ひらひら。砂場で遊んでいたグレータとニーナもいっしょに追いかけて、葉っぱを捕まえようとするのですが・・・一枚の葉っぱを追いかけていく子どもたちの行き着くところは・・・?

楽しくて、ほほえましくて、子どもたちの気持ちがユーモラスに描かれていて、大好きな一冊です。小さい子の読み聞かせにも楽しいですよ。

『あの路』



山本けんぞう/文 いせひでこ/絵 1575円

ママが死んで、おばさんに引き取られた少年と三本足の犬が出会い、友達になっていく。唯一の友だちとして。いじめられっ子の少年と薄汚れた三本足の犬は互いの存在を確かめ合うように寄り添い、風のなかを駆けていく。ある雪の朝、ゴミ箱の下に黒いモップのようにころがり、後ろ足がビニール紐できつく縛られていた三本足。少年は三本足を抱きかかえ、・・・。

いせひでこの前作『ルリユールおじさん』や『大きな木のような人』の中の景色と重なるパリの街角。青を基調に描かれたいせひでこの世界。詩人山本けんぞうの抑えた悲しみの世界。

そして、おとなになった少年は、語る
「たくさんの日々を歩いている。
たくさんの一とのなかを、ずっと、ひとりで、歩いている。

大丈夫さ。
目をつむれば、あの路がある。
きみがぼくを見ている。
ぼくは歩き続ける」

少年と三本足の絆は今も生き続けているのです。きっと魂の深いところで。

『さあ、たべてやる!』



ケイト・マクマラン/ぶん ジム・マクマラン/え さくまゆみこ/やく 1470円

ぎろりとした目玉、頑丈そうな大きな口。力強いタッチの表紙に引き込まれそうです。朝早くから働くこの車。みんなの捨てたゴミをどんどんのみこんで、口の中がいっぱいです。さあ、くさい臭いもなんのその。そう、おいらの名前は・・・。車好きな子なら、興味をもって手にとってくれるでしょう。親子で楽しめる一冊になるでしょう。

『ふくろのなかには なにがある?』



ポール・ガルドン/再話・絵 こだまともこ/訳 1470円

キツネはまるまる太ったハチを捕まえて袋の中に入れました。てってこ てってこ歩いて行って、ちっちゃな ちっちゃなおばさんの家に行きました。袋になかをのぞかないようにと言って、その袋を預けていきました。ところが・・・。ポール・ガルドンのユーモラスで表情豊かな絵と繰り返しが楽しい再話絵本です。

《イソップえほん》

『オオカミがきた』



蜂飼耳／文 ささめやゆき／絵
1260円

イソップ寓話の「オオカミ少年」を蜂飼耳さんとささめやゆきさんのふたりはこんな風に料理してみました。という感じです。ふたりの世界を堪能したいかたはどうぞ、おすすめです。

『いなかのネズミとまちのネズミ』



蜂飼耳／文 今井彩乃／絵
1260円

こちらも蜂飼耳さんの文ですが、いまひとつ蜂飼耳さんらしくないような・・・？

絵はいいですね。この作品が日本でのデビューとなる作品のようです。

『くまの楽器店』



安房直子／文 こみねゆら／絵
1575円

安房直子さんの醸し出す不思議で美しい世界に魅了された人は、私の周りにもたくさん居ますが、「こみねゆらさんのこのコラボはいかがでしょうか？絵本になったこの『くまの楽器店』はどうでしょうか？」と私はちょっと聞いてみたいような気がするのですが、どうでしょう
安房さんの独特な世界とは、どこか違うような気がするのです。

野原の真ん中の、大きなニレの木の下の小さなお店。看板には「ふしぎや」と書かれていて、お店の中には緑のベレー帽をかぶったくまが居ました。そんなはじまりのやさしさ溢れる絵本です。

「ふしぎなトランペット」

「月夜のハーモニカ」

「野原のカスタネット」

「さむがりうさぎの すてきなたいこ」

4編のショートストーリー。みんなが必ずしも楽器を求めてやってくるのではないのですが、くまはさり気なく不思議な楽器をすすめます。そして、みんな満足して帰ってきます。さあ、どんな楽器でしょうか？

表紙に「心がやさしくなる絵本」と書かれたシールが張ってあったけど、こんなのが張ってあるとがっかりします。

『雪だるまの雪子ちゃん』



江國香織 作
1575円

これからの季節にぴったりの本です。

ところで、正真正銘の「野生の雪だるま」のことって、考えたことありますか？勿論あるわけないですよ。

でも、いるのです。あいらしくて、凜とした「雪だるまの雪子ちゃん」が。江國さんの文章に浸りながら、しばし雪子ちゃんを思いました。

『反撃』



草野たき 著
1365円

人生は思うようにいかないことがいっぱい。でも、たくましく生きるガールズストーリー。ススメ我が女の子！

トロル 東村山市野口町1-11-4 TEL042-392-5304

<http://www.troll-ren.jp>

文責・西山

「はじっこ」から・・・2010年2月

新しい年が明けたと思ったら、もう節分です。本当に早いものです。まだまだ寒い2月ですが、1月が過ぎると春を感じるがあります。梅のつぼみも膨らんでいます。私は毎年この時期に味噌づくりをします。大豆を煮て、塩と麴を合わせ、味噌玉を作り、甕の中に重ねていきます。手の中でころころとなじんでいく味噌玉作りはささやかな幸せを感じさせてくれる楽しい作業です。

『ぐりとぐらのおまじない』



なががわりえこ 作 やまわきゆりこ 絵
600 円

ちょっと元気がでないとき、この絵本をとりだして「ちちんぷいの・・・」とおまじないをかけると、あら不思議、元気の元がやってきそうな絵本です。

「ちちんぷい」は魔法のことば。こどももおとなも「ちちんぷい」と魔法をかけて、おまじないを唱えてみましょう。悲しい時は「ちちんぷいの ぼい」っと泣き虫を追い出して、なまけ虫がやってきたら、「ちちんぷいの ぴん」っと背中を伸ばし、嫌いなにんじんも「ちちんぷいの ぱくっ」っと食べちゃって、あらあら、なんだか強くなったよう。困ったことがおきたなら、「ちちんぷいの・・・」とおまじないをかけて、前を向いて歩きましょう。小さい絵本なのでかばんの中にしのばせて、いざとなったら、取り出しましょう。

『ピンクがすきって きめないで』



ナタリー・オンス／文 イリヤ・グリーン／絵 ときありえ／訳
1680 円

女の子はふつうピンクが好きで、ひらひらしたお姫様つまのがすきだけど、「わたし黒がすき。」
「女らしさ」や「男らしさ」を押し付けられるのはイヤ！と心の叫びが聞こえてきます。
「・・・らしさ」を強要されるのは、たまったもんじゃない！
私も注意しなくては・・・。

『おつきさま こっちむいて』



片山玲子 文・片山健 絵
800 円

お月さまはいつも、ぼくの後をついてくる。
ほそいほそいお月さまやまんまるお月さま。
雲に隠れていたり、木の陰にいて、木が揺れるときらきらかがやいてみたり。お月さまはいろんな表情で、こっちをてる。
「おやすみなさい おつきさま」と語る男の子のなんと柔らかなまなざしなことか。

『ふゆのゆうがた』



ルハン・ホルヘ文／サダト・マンダナ絵／谷川俊太郎 訳
1470 円

冬の夕方、お母さんを待つ間、女の子は曇ったガラス窓に指でお月様を描きました。すると、そこに見えたのは大好きなお母さん。近づいてくるお母さんに合わせて、どんどん、どんどん大きく描いていきます。お母さんが抱っこしてくれるまで。あざやかなコントラストの絵がふたりの想いに重なって、引き込まれていきます。

『おじいちゃんとテオのすてきな庭』



アンドリュー・ラースン・文／アイリーン・ルックスパーカー・絵
1470 円

おじいちゃんが引っ越したアパートには庭がありませんでした。そこで、ふたりはすてきな「庭造り」をはじめます。「庭」のはしに石塀を作り、土を入れ、まず、クロッカスやすみれの花を咲かせます。そして・・・最後は小鳥もやってくるすてきな庭の完成です。さて、どんな庭でしょうか？ぜひ手にとってみてください。ふたりの庭はみごとに完成しています

『はじまるよ』



熊谷守一・絵／ぱくきょんみ・文
410円（「こどものとも0・1・2」）

下世話な話で恐縮ですが、410円でこんな絵本が買えるんだよ。すごいよね。さすが福音館！と思います。自然の営みに目を凝らし、描いた熊谷守一の作品に詩人のぱくきょんみがことばを寄り添わせました。福音館の月刊誌「こどものとも」が面白いのです。毎月定期分しか入らないので、知らない人はぜひトルで手に取ってください。

『かれはふるふる ゆきがふる』



スズキコージ 作
410円（こどものとも年中版）

「かれはふるふる のやはたけ のやはたけに かれはふるふる」と唱えながら、季節の移ろいをこんなに楽しく遊べたらいいですね。森の精たちがいきいきと秋から冬へ移行り行く時間を遊んでいます。スズキコージが楽しく愉快地そして静かに、冬へとはこんでくれます。この絵本も月刊誌「こどものとも」です。

『やめて』



デーヴィド・M. マクフェイル/柳田邦男 訳
1680円

表紙に「やめて！」と力強く叫ぶ男の子。男の子は一通の手紙を書き終えるとポストに出しに行きます。争いのない未来への願いを込め、作者デビット・マクフェイルが描きました。文字のない故に想像力が揺さぶられ、強いメッセージを感じます。

『どんなときも きみを』



アリスン・マギー 文／パスカル・ルメートル・絵
1260円

『ちいさな あなたへ』の作者の最新刊。ちょっと期待したけど・・・。どんなときも君を守りたいと、健気に、時に勇敢に立ち向かっていく姿は痛々しいというより、笑っちゃうけど。こういうのが一般にやさしさ溢れる絵本と言われるのでしょうか？
笑っちゃう私は、やはりへそ曲がり？

『簡単 たのしい』

『エプロンでつくるポケットシアター』



尾崎富美子 作
2100円

またまた、トル出版部の本がでました。市販のエプロンが「エプロンシアター」へと広がっていきます。小さな小さな劇場のでき上がりです。エプロンを使ってする、歌あそびや手遊びは子どもたちに大人気です。

ポケットシアターの3つの特徴

1. 市販のエプロンを使って制作します。
2. 人形には綿を入れず、フェルトどうしを接着剤で貼り合わせて作ります。
3. ひとつの作品（エプロン）で3通りのシアターができます。

エプロンのポケットから出てくる人形たちと一緒に、子どもたちとポケットシアターを楽しんでみませんか。

トル 東村山市野口町1-11-4 TEL042-392-5304

<http://www.troll-ren.jp>

文責・西山

「はじっこ」から・・・2010年4月

いよいよ4月。今年の春は行きつ戻りつしてばかり。桜が散っても春の風はぎこちない。

そして、新学期。久しぶりに教室の扉を開けるときの嬉しいような恥ずかしいようなそんな思いがよみがえります。くすぐったい春です。

『はしれ はしれ』



きむらよしお 作
1260 円

「ちへいせんから たいようが のぼってきた。

かぜは まだ ねむっている」

朝ごはんを食べていないライオンはラクダを捕まえようと追いかける。逃げるラクダ。走る走る走る。ひたすらに。はらぺこのライオンは目が回り、足がタコのようになって、座り込む。ラクダも走りすぎて、足がくらのようになって、座り込む。命をかけた二頭のたたかい。駆け引き。お互いを見つめ、探り、また走る。

絵本から荒い息遣いが聴こえるようだ。

そのスピード。疾走感。

はたしてラクダの運命は・・・？

走り続けるライオンとラクダの間に流れる哀愁やそこはかとないユーモア。命をかけたたたかいはずなのに、お互いの間にはおかしな友情さえ芽生えていきそうな・・・？ そんな予感さえしてしまう。なんだかとにかく面白い。

絵本ってやっぱりおもしろいなあ。きっとそんな風に思える一冊です。

『続 しごとば』



鈴木のりたけ 作
1785 円

人気の「しごとば」の絵本第二段。今度は花屋、宇宙飛行士、とうふ職人、獣医師、書店員、考古学者、漫画家、プロ野球選手、ファッションデザイナーの9職業、9つの「しごとば」を紹介。取材では一度に200枚もの写真を撮り、見慣れない道具の名前や用途をメモしたそうです。まるで事件現場の鑑識官みたいと言われたとか。でも、おかげで隅々までたつぷりと楽しめる絵本です。

同業「書店員」の仕事は、トルルとちょっと違うけど、それでもカウンターの中がどんなになっているか覗けて、よその本屋を偵察しているような感じでした。

読み聞かせコーナーがあったり、出版社の営業の人が来ているところを見ると、結構大きな本屋さんかな、なんてことまで想像してしまいます。

作者の鈴木のりたけさんはこの出版社の営業マンを登場させたのは「仕事はひとりでは完結しないことを伝えたいがためだったとか」なるほど、いろいろ仕掛けがあるんですね。

そして、最後のページにおまけがあるのです。

休みの日のそれぞれの過ごし方。本業とは別の顔をみせてくれて、これもおかし。

ちなみに「しごとば」第一弾は「美容師・新幹線運転手・すし職人・自動車整備士・木のおもちや職人・革職人・歯医者・パティシエ・グラフィックデザイナー」などでした。

『百年の家』



J・パトリック・ルイス 作 / 長田弘 訳
1995 円

一軒の家が語る100年の歴史。

廃墟となっていた家に人が住み、新たな息吹が感じられ、いくつもの物語が始まる。豊かな自然とともに暮らし、畑を耕し、作物を植える。日々を紡いでいく人々。そして、それをじっと見守る家。

しかし、やがて戦争が影をおとし、いくつもの悲しみが人々を襲う。

「妻は夫をうしなった・・・なんという悲しみ。

家の暖炉で、からだを暖めて、子どもたちは学校にゆく。

よい心と教科書と、そして薪を、いっしょに持って。

みんなが無邪気でいられた時間は、すてきだった。

でも、短かった。」

人と家が織り成す100年の歴史を長田弘の訳が大きく息を吹きかけ、語りかけている。濃密な絵と文章。こちらもおすすめです。

【ちょっとお知らせ】

トルルの関本が月刊「MOE」の取材を受けました。
4月号の「MOE」に載ってます。

「今月の絵本と展覧会」というコーナーです。
関本お薦めの本やお店のことなど載ってます。
お店にありませう。

『ひみつだから！』



ジョン・バーニンガム 作/福本友実子 訳
1680 円

マルコムというネコがいました。毎晩外に出かけ、朝になると帰ってきます。

夏の夕方、羽根をつけた帽子をかぶり、すっかりおめかしをしたマルコムがいました。パーティーに行くのです。

さて、ねこのパーティーって・・・？

ジョン・バーニンガムの不思議でおかしな世界をご堪能あれ。なんだか楽しくなりますよ。

『ようせいアリス』



デイビット・シャノン 作/小川仁央 訳
1365 円

「だめよ、デイビット」のデイビット・シャノンの新刊。こどもの世界がいっぱい詰まっているという感じです。ようせいアリスはなかなかうまく魔法がかけられません。せいぜいパパをおうまさんに変えたり、はっぱを降らせたりすることぐらい。でも、そんなことちっとも気にしない。天真爛漫で無邪気で元気でハッピーな女の子のお話です。

『コブタのしたこと』



ヘウス・ミレイユ著/野坂悦子 訳
1365 円

リジーは特別学校（特別支援学校）に通っている女の子です。母親と二人暮らしのやさしくておとなしい女の子でした。ところが金髪で巻き毛の女の子（コブタ）と友だちになります。いわゆる「悪い友達」と出会ってしまうのです。そして、事件に関わっていきます。刑事に取調べを受ける中、リジーは自分を見つめていきます。

とても重たい話でした。コブタは信頼できない大人の中で育ち、救いのない女の子として描かれています。そのコブタとの関係をリジーはどうしていくのか。

読み終えてとても重いものが残りました。

以前読んだ「チューリップ・タッチ」（アンファイン著・灰島かおり訳）を思い出しました。

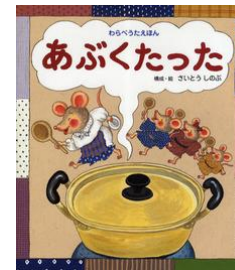
親はいつでも子どもにはよい出会いがあるようにと望みます。しかし、時にそれは予期せぬ出会いが始まります。はらはらと見守る親、いけないとわかっているにもかかわらず反対の方向に進んでしまう子。いくつもの葛藤があり、いくつもの偶然があり、しかし、事件はおきてしまいます。

できれば避けたい話でした。でも、現実はいつも問いかけています。

リジーは事件のことを思い出しながら、少しずつ自分を取り戻していきます。そして、私たちに目を背けてはいけないことを教えているような気がします。

人生は思いがけないことがいっぱい詰まっていて、皆、懸命に生きてるはずなのに、どこかで歯車が狂い始め、別な明日が待っていることもあります。でも、・・・、だからこそ、前を向いていたいと思うのです。

『あぶくたった』



さいとうしのぶ 構成
945 円

「♪♪ あぶくたった にえたった♪♪」
おなじみのわらべうたが絵本になりました。ねずみ一家がつぎつぎと登場して、煮え具合を確かめています。その表情が楽しそうで、早く煮えないかなと楽しみにしている様子もまた、楽しい！

『きりのなかのサーカス』



ブルーノ・ムナーリ/作 谷川俊太郎/訳
2415 円≪5月重版出来≫

谷川俊太郎の新訳で復刊したブルーノ・ムナーリの名作絵本。デザイン性に優れ、絵本としてその質の高さに感服です。トレーシングペーパーで表された霧の街は幻想的で、ページをめくると、やがて、サーカスが姿を現します。色鮮やかなサーカスは別世界。霧の中を歩くのは、夢の中をさまようような・・・、そして、出会うサーカスも。シンプルな線描は豊かな夢の入り口。人々の喧騒とサーカスの音楽さえも聴こえてくるようです。夢と現が入り混じり、そしてまた、緩やかに日々へと戻ってゆく。うーん、やっぱりすごい絵本だなあ。

「はじっこ」から・・・2010年7月

あつという間の7月です。

我が家に和歌山から梅が届きました。大きくてころころしたあんずのような梅がなんと20kgも。家人はあまり興味を示さないのですが、わたしひとり嬉しくてワクワクしています。今年はどうな梅干に生まれ変わってくれるのでしょうか。楽しみです。

梅干好きの人、おすそ分けしますよ。合言葉は「うめぼし」。出来上がる10月過ぎ頃まで覚えていられるかな

『きいろいかさ』



リュウチェスウ 作・絵／シンディル 曲
1890円

灰色のアスファルトの上の黄色い傘。

やがて青い傘に会い、赤い傘にも会い、そして橋の上では緑の傘も待っていました。公園を通り、踏み切りではピンクやオレンジ、パープルと次々に友だちは増えていきます。きっと傘の中ではいろんなおしゃべりが花を咲かせているのでしょうね。

雨の中を色とりどりの傘がくっついたり離れたたり。メロディが聴こえてきそうです。そして、たどり着いたところは・・・。

ピアノ曲集「きいろいかさ」のCDもついています。

残念ながら曲は聴いてないのですが、絵本だけでも充分楽しめます。文字のない絵本ゆえのイメージの拡がりをどこまでも追いかけてみてください。

『あめのちはれて また あした』



比嘉こずえ 作・絵
1260円

たろうちゃんといちちゃんは雨の中を公園にでかけます。

ふたりで仲良く砂山を作っていたのですが、シャベルのことでけんかになってしまいます。いちちゃんは怒ってブランコにいきました。しばらくすると、ふたりが砂山を挟んで、向かい合っている場面があります。

お互いの思いがあふれているような場面です。雨降る中のふたりはきっと同じことを思っていたのでしょうか。子どもたちにもちゃんと受け止められると思います。

『なにわ くいしんぼうくらぶ』



土橋とし子 作・絵
1680円

学校帰り、浪速の食いしん坊三人組はあれこれ食べものの話で盛り上がっています。

この絵本はおなかのすいている時には見ないほうが良いと思います。思いっきり食べたくなってしまうかもね。

ところで、土橋さんの絵はどこか可笑しくて、懐かしくて、楽しくて、好きです。

『引き出しの中の家』



朽木祥 作／金子恵 絵
1470円

朽木さんの本は「彼岸花はきつねのかんざし」しか読んだことがなかったのですが、気になる作家さんです。

真っ赤なカバーの表紙に思わず惹かれました。カバーをはずすと、たんぽぽ、クローバー、アネモネなどの春の花々が可憐に描かれています。装丁は女性かな？と思いましたが、名前が見当たりません。気づかないところにもしっかりと手をかけているようで、嬉しくなりました。

この本にでてくる「花明かり」はとても小さいコロボックルのような存在です。「花明かり」は幼いうちは嬉しいことがあると花の香りを発し、大人になると輝いていきます。それが足元の明かりとなったり、周りの花を咲かせたりします。「花明かり」の存在こそが幸せの証なのです。ところが、いつでも誰でも会えるわけではありません。

七重は体が弱く、母方の実家に預けられました。その家で七重は「チューリップの樹」と出会います。根元にちいさな洞窟のような穴がありました。そこに住む「花明かり」は七重の作った引き出しに中の世界を訪れます。引き出しの中は小さなタンスやテーブルがセットされ、お茶の道具も用意しています。誰にも見つからないようにしながら、七重と「花明かり」は出会いを重ねます。大切な秘密の出会いはやさしい大人たちに守られながら、・・・ところが・・・。

時代を超えた2部構成の話は、しっかりと受け継がれ、繋がっていました。

情景描写がうまい作家さんだなあと思いました。



『5匹のすてきなねずみ
ひっこし だいさくせん』



たしろ ちさと 作・絵
1470 円

5匹のねずみの絵本第2弾。
5匹のねずみは隣の家が猫を飼い始めたので、新しい家を探することにしました。
なかなか新しい棲家は見つかりません。
そこでゴミ置き場に捨ててあったものをあれこれ使い、新しい家造りが始まりました。
古時計は食品貯蔵庫に、ビー玉の窓からはおひさまのやわらかい光がきらきらと入り、自転車のタイヤは観覧車になりました。ところが、

ニャアオオオオオオ……………。(……………、意外な結末)

表紙の見返しに5匹のねずみが紹介されています。
ぐれ…こうきしんおうせいで はながきく。かたほうだけ あおいソックスをはいている。好きなことたべること
ちびすけ…さびしがりや おんなのこだけどちびすけとよばれている。たからものはみどりのうでわ。すきなこと おえかき。

……………と、こんなふうには。
この見返しを見ただけで、なんだかわくわくしてきます。
さあ、どんなお話が始まるのかなって思うと、子どもたちの気持ちもきつと、わくわくどきどき。絵も丁寧で大胆。

著者たしろちさとさんはグランママ社からでている「くんくん、いいにおい」もお薦めです。

『みつばち みつひめ どどとなつまつりの巻』



秋山あゆ子 作・絵
1365 円

まさに今が旬の絵本です。
みつばちのみつひめは、お城を抜け出し、夏祭り会場へひとつとび。夜店で綿あめを買ったり、お面をかったり、おおはしやぎ。ところが…雷がゴロゴロと。
細部のこだわりがいろいろあって、とにかく楽しい！
虫たちの隠れた物語もあるとか…。さかしまのカードも付いていて、みんなでわいわい言いながら、遊べます。

『まるまるまる のほん』



エルヴェ・テュレ作／谷川俊太郎 訳
1365 円

これは新しい試みの絵本です！
絵本でありながら、ちょっと違う。まずは遊んでください。

トル 東村山市野口町 1-11-4 TEL042-392-5304
<http://www.troll-ren.jp> 文責・西山



恥ずかしながら、載っちゃいました！-----

トルの関本が学研の雑誌『OF』(アウトドアファッションの雑誌)に載っちゃたのです。

4月のとある日。場所は代々木公園。
アースディの会場で何やら見知らぬ人に声をかけられ
“パチリッ”！(怪しい人ではなかったのです)

嬉しいやら恥ずかしいやら、でも、ちょっと自慢。
まあ、こんなことは、そうないですものね。
20代30代がターゲットの雑誌のなかで、60歳がしっかりまぎれています。

そんな訳で『OF』Vol.3「みんなの夏のアウトドア服！！」

もちろんトルでも売ってます。

「はじっこ」から・・・2010年8月

サルスベリの花が咲いています。つるつるした木肌の先に、小さく可憐な花びらが幾重にも重なり合うように、鮮やかに、そして艶やかに、今を盛りと咲いています。ゆらゆらと風に揺れる花卉の頼りなさ、そして紅色のフリルを贅沢に身にまとったかのような花卉のしたたかさ。それらを共に併せ持つようで心惹かれます。花言葉は「敬愛、潔白、雄弁」。花の少ないこの季節、炎天下に咲くサルスベリに何故か心動かされるのです。

『七つめの絵の具』

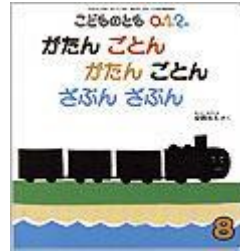


いせひでこ 著
1470 円

いせひでこさんの拘る紺青色の本を手にも、引き込まれるようにページを捲ります。すると、紛れもない「いせひでこの世界」が押し寄せてきます。これでもかと言うほどに。あまりに真摯な眼差しに息苦しさを感じたり、しかし、その直向さに、私はだまって文字を追うのみです。やはりいせひでこという人は、確かに言葉でも描くのですね。絵本『あの路』を手にも第七章のあの路を読むと、またより深く味わえます。いせひでこという人が浮かび上がってきます。

『がたん ごとん がたん ごとん ざぶん ざぶん』

(こどものとも0・1・2/8月号)



安西水丸 作
410 円

『がたん ごとん がたん ごとん』が出てから、23年も過ぎて、続編がでたのです。(びつくり!)23年前に読んだ子どもはもしかしたら、おとうさんになって、続編をわが子に読んであげてるかもしれない。それだけ長い時間待たせた続編は期待通りの夏にぴったりの絵本になってやってきました。

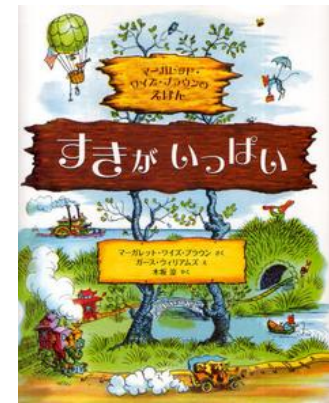
『くつやのねこ』



いまいあやの 作
1575 円

小さな肩にポンセットをかけ、赤い長靴を履いている猫。「長靴をはいた猫」をアレンジしたお話です。靴職人に飼われていた猫は靴職人の窮地を救い、村に平和をもたらします。小さいけれどしたたかで賢くて勇気のある猫。最後に靴箱の上で眠る猫の表情のかわいいこと！おしゃれで落ち着いたトーンの色使い。翻訳絵本かと思ったら、日本の作家さんでした。それもポーロニャ国際絵本原画展に何度も入賞している作家さん。楽しい作家さんです。

『すきがいっぱい』



マーガレット・ワイズ・ブラウン 作/ガーズ・ウィリアムズ 絵
木坂涼 訳 1260 円

私思うんです。人生に勝者も敗者もないけれど、でも、好きをいっぱい見つけた人がやっぱり勝者じゃないかってね。好きは量じゃないけれど、いっぱいあったほうがいい。この絵本を手にも好きを探してみませんか。

『かあさん どうして』



谷川俊太郎 詩/中村悦子 絵
1365 円

「かあさん かわは どうして わらっているの
たいようが かわを くすぐるからよ
・」
谷川俊太郎が若いころに書いた詩「川」が絵本になりました。うさぎの子どもたちの成長を川の流れと時の流れの中で静かにおいかけています。

『いいことが ありました』



もりやまみやこ 作／ひがしあきこ 絵
1260 円

なんと言うことはないタイトルなんです、なんだか嬉しくなります。「いいこと」は嬉しいものです。

文庫のHさんのお薦めです。

「この本、いいよね。文庫の子どもたちに手にとってほしいけど、なかなか手にとってもらえなくてね」と言っていました。

ともだちとけんかしたねずみの子が、むしゃくしゃして蹴っ飛ばしたどんぐりがくまのおじいさんのおでこにゴツン。くまのおじいさんも気になることがあって、ちょっと面白くない気分でした。そんなときに会ったふたりにおこったいいことって？

嬉しくなるようなおはなし三つ。

年長さんあたりからお薦めです。

文庫のHさんが言うように地味な本で子どもが自分から手にとって読もうという気にはなかなかならないかもしれない。だからこそ、大人がはじめて読んであげてほしいなって思います。

きっと、読んだ後、ちょっと嬉しい気分になって、スキップしたくなったりして…。(オーバーかな)

きっかけは何でも、出会いは嬉しいものです。

「いいこと」はそこから始まるのですね。

たくさん「いいこと」がありますように。

『あおいくも』



トミー・ウンゲラー／作 今江祥智／訳
1575 円

トミー・ウンゲラーが色にこめた平和への想いを一冊の本にしました。

「すてきな三にんぐみ」の著者&訳者コンビがおくる21世紀の寓話。ぜひ手に取ってください。

『カミナリこぞうがふってきた』



シゲリカツヒコ作
1260 円

トラのパンツの赤ちゃんが空からふってきて…と思ったら、カミナリの子でした。さあ、どうなるのかな？リアルな絵でおかしな世界が楽しめます。

『はなび』



浅沼とおる 作
735 円

表紙に漂う寂寥感。夏の終わりの花火の感じ。でもうさぎとくまも嬉しそう。絵も特にいいという訳ではないけれど、でも何だか不思議なあったかい絵本でした。

淡々として楽しそうで、結構気に入ってます。

「のぼっていくよのぼっていくよ おおきなはなびがさいたよ そらがあかるくなったね はなびのおとでそらがゆれるよ

あたまもおなかもあしもゆれた

おつきさまはなびをみたかな

みみのなかに まだ はなびの おとが のこってるよ

こんどは ぼくたちの はなびだよ」

『むしっこ サーカス』



タツムカオ作 1260 円

カブトムシのたまのり、アリの空中ブランコ、人気の虫たちが大集合。虫の世界の楽しいサーカス、面白いですよ。

トロル 東村山市野口町 1-11-4 TEL042-392-5304

<http://www.troll-ren.jp>

文責・西山

「はじっこ」から・・・2010年10月

やっと秋がきました。

今年ほど秋を待ち焦がれた年はなかったんじゃないか

と思うほどです。暑い暑い夏でしたもの。

さあ、秋を堪能しましょう！

まずは、おいしい秋を探しましょう！（それしかないか）

『おおきな木』



シェル・シルヴァスタイン／著 村上春樹／訳
1260 円

以前、篠崎書林から本田錦一郎さんの訳で出ていましたが、出版社の事情で絶版になっていました。

そして、新たに村上春樹さんの訳で生まれ変わりました。

二冊の本を並べて読み比べてみると、訳によって本当に別の顔がみえてきたりします。

どちらがいいとか悪いとかではなく、どちらが好きかと問われれば、前のほうが私はいいかなあって、思いました。

この『おおきな木』は「無償の愛」とか「限りない愛をささげる」とかいわれ、多くの感動をよんでいることも確かです。

1964 年に出版されてから、30ヶ国語以上も翻訳され、読

み継がれているロングセラーです。

木は少年が大好きで、少年の望みをできる限り叶えてあげたいと思い、大人になった少年の願いをも次々と受け入れていきます。

本田訳では

「きは それで うれしかった・・・ だけど それはほんとうかな」

と、問いかけています。

でも、村上訳では

「それで木はしあわせに・・・ なんてなれませんよね」

と、断定しています。

断定しないで、問いかけてほしかったなあ。読者の側に投げかけてほしかったと言うのが、勝手な思いです。

また、本田訳では「うれしい」と表現されているところを、村上訳では「しあわせ」になっていました。

単純に「うれしい」のほうが私は素直に受け取れました。

実はへそ曲がりの私は、この本の中で、母性や自己犠牲を必要以上に語られているようで、また身勝手な少年にも腹を立て、正直、それほど好きな本ではありませんでした。

でも、村上さんは書いています

「あなたが何歳であれ、できたら何度も何度もこのおはなしを読み返していただきたい思います。一度ですんなりと理解し、納得する必要はありません。よくわからなくても、つまらなくても、反撥を感じても、腑に落ちなくてもやもやとしたものがあとに残っても、悲しすぎても、腹が立っても、とにかく何度も読み返してみてください。」

と。

そうだ！この『おおきな木』は何度も何度も読み返してみよう、そんな本なのです。

ぜひ、もう一度読み返してみてください。

その都度違った顔を見せてくれるかもしれません。

私も、少し木への思いが違って見えました。

『ひとつ』



マーク ハーシュマン作／バーバラ ガリソン 絵
谷川俊太郎訳 1200 円

絵が いいね！

1 ってステキなんだなあ。

谷川さんが書いていました。

「1 はだいすきなかず

ちいさいようで おおきい

なんでも1のなかにいられる・・・」

「かぞえきれないほど ほしはあるけれど そらはただ1つ
5 まんびきも みつばちはいるけれど むれると1つ

..

でも さいこうの1は ひとりつきりきやいないまぐ
ひとりつきりきやいない きみ」

他の誰でもないひとりのわたし。

「絵はいいんだけどなあ・・・」とつぶやいている人がいました。
物語絵本でもなければ科学絵本でもないし、詩でもないし、数の概念が表されているけど・・・？。

よくわからなくても、もちろん OK！

絵がステキで、世界中にひとつでひとりのわたしって、いいかもねって思えたら、いいんじゃないかな。

人はひとりでは生きていけないけど、まずはひとりひとりからはじまるのかな？

いろいろな1、はじまりの1。そしてたいせつな「ひとつ」

『ぼくのお風呂』



鈴木のりたけ
1260 円

あの『しごとば』の作者です。
毎日同じお風呂じゃつまらないといろんなお風呂を考えます。
まあ、出てくる出てくるいろんなお風呂が次々と。
長いお風呂、丸いお風呂、迷路のお風呂、ぐるっとまあるい
大きなお風呂、泡風呂、星風呂、階段風呂。電車風呂や遊
園地風呂まで登場して、いつてみたあーい！入りたあー
い！と声をあげたくなりました。

『あいうえおにぎり』



ねじめ正一・作／いとうひろし・絵
1050 円

「あいうえおにぎり ぺろっとたべて
かきつけころっけ あつあつたべて ……」
さあ、次は何をどんなふう食べるでしょうか？
当ててご覧。

『もりのてぶくろ』



八百坂洋子・文／ナターリヤ チャルーシナ・絵
800 円

秋の森、一枚の葉っぱが落ちていました。
黄色い葉っぱは手の形。動物たちは思わず手を乗せてみま
す。「わあ、ぼくのより大きい」とあきらめていると……。
秋がつまった絵本です

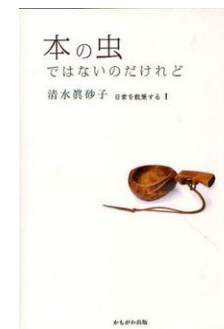
『カエルもヒキガエルも うたえる』



アーノルド・ローベール 作／エイドリアン・ローベール 彩色
アーサービナード 訳 1470円

カエルくんとヒキガエルくんのあのアーノルド・ローベールが友
人のために描いた未発表の作品です。
没後20年を経て発見されました。それを息子のエイドリ
アン・ローベールが彩色。
『ふたりはともだち』から始まる『Frog and Toad』シリーズの
原点がここにあります。

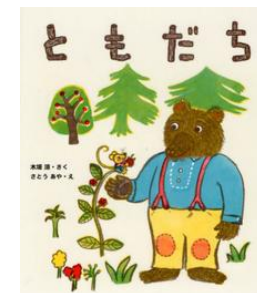
『本の虫ではないのだけれど』



清水眞佐子 著
1995 円

清水眞佐子さんのまなざしは静かでしなやかで、暖かく、で
も、思わず背筋をピンと伸ばさざるをえなくなるようで、私は
いつもいいなあって思っています。いい加減な自分はときど
き清水さんに会いたくなって、本を開きます。
子どもたちのこと、自分が教えた学生たちのこと、出会った
人々、愛するお連れ合いさんのこと、翻訳した作品のこと、
これまでに書かれたいくつものエッセイを集成。

『ともだち』



木坂 涼 作／さとうあや 絵
1260 円

くまのおじいさんとねずみのぼうやはともだちです。
小編が5つ、やさしく楽しませてくれます

トロール 東村山市野口町 1-11-4 TEL042-392-5304
<http://www.troll-ren.jp> 文責・西山

「はじっこ」から・・・2010年11月

11月になるとクリスマスやお正月商戦がはじまります。いつも乗り遅れているトルルは、今年こそ！と思うのですが、目の前の現実に打ちのめされそうになります。今年こそ！そう、今年こそ！

『子どもに薬を飲ませる前に読む本』



山田 真 著 1365円

病気になると薬でなんとか治そうとします。もちろんそれは当然なことです、その前にこの本を読んでください！

お医者さんからでた薬は「飲まなくちゃ」と思っていますが、時々心配になります。私たちは子どもの薬についてどれだけ知っているのでしょうか？(実は私もよく知りませんが)親として必読の一冊だと思います。

子どもの薬の基礎知識から、かぜの薬についてや抗生物質のことやよくかかる病気の薬について、山田さんが疑問や不安にこたえてくれています。でも、山田さんは正直な人なので、自分が使ったことのない薬や効き目がどうかあと思っているような薬については、あまりふれていないようです。ただ、山田さんはものすごい勉強家で、わざわざ欧米の新薬の効果を評価する機関の雑誌を購入し、判断の参考にしたりしているようです。(なかなかこんなお医者さんはいないですよ)トルルに山田さんの娘、涼ちゃんがいるから言っているわけではありませんが、ほんとにお勧めの一冊です。

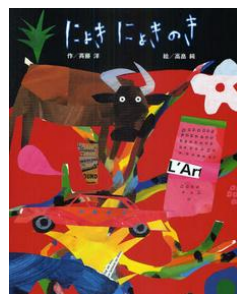
『いのちのかぞえかた』



こやまくんどう 文/セルジュ・ブロック 絵
1365円

人生を数字に例えるのって虚しいけど、この本の数字は、ちよつと違う。数字が人生を語っているのです。毎日、この地球上のどこかに22万人もの赤ちゃんが生まれて、その中のひとりの女の子が主人公。(そう、あなたです)いつの間にか自分と照らし合わせて、にんまりしたり、感心したり・・・、えーっ、そうかなあ、なんて思ったり。

『によきによきのき』



齊藤洋 作/高島純 絵
1470円

「なにか、きれいな本はありますか？」と、聞かれました。きれいな絵本を模倣して、部屋に飾りたいとか。いくつかすすめて、求められた中の一冊がこの「によきによきのき」でした。赤や黄色の原色の鮮やかな「によきのきのき」はきつと楽しくて明るい部屋してくれるでしょう。

『もりの おくの おちやかいいへ』



みやこしあきこ 作
1260円

雪積もるシーンとした世界。おばあちゃんの家ケーキを届けに行く女の子。転んでしまってケーキがつぶれ、泣きたい気持ちでいると・・・？白と黒を基調にした絵本の中にぼつんぼつんと赤や黄色が混じり、世界が色づいていきます。特に画面いっぱいケーキが出てくると、「おいしそう！」と思わず、声をあげたくなります。シーンと静かな世界から、にぎやかな不思議な世界へと誘って、心に残る一冊になりそうな絵本です。

『たいせつな あなたへ』



サンドラ・ポワロ＝シェリフ 作/おーなり由子訳
1260円

子どもが生まれるまでにどんなに待ち焦がれていたことか。あふれる思いが絵本の中から、こぼれそうなくらいです。素直に伝えられない人はこの絵本をどうぞ！

『もりのくまとテディベア』



詩・谷川俊太郎 / 絵・和田誠
1260 円

森のくまとショーウィンドーのぬいぐるみのテディベア。動物と静物。動と静。命あるものとそうじゃないもの。2匹のくまを対比させながら、物語はすすんでいきます。

「もりのくまは ゆっくりあるく
このまがくれの おひさまあびて
すきなはちみつ さがしてあるく

ショーウィンドウの テディベアは
あしはあるけど すわってるだけ
どこへもいかない なにもたべない
… … … 」

「このまがくれの おひさまあびて」の一文が初めピンときませんでした。「このまがくれ」は「木の間隠れ」なのです。途端に情景が拡がり、木洩れ日のなかを歩く熊が動き始めました。谷川俊太郎の美しい日本語が創りだす世界は時にやさしく対比させながら、命あるものとそうじゃないものの世界をくつきりとそしてダイレクトに浮かび上がらせています。それに対抗するように和田誠の絵が応えています。いつまでたっても眠れないテディベアの悲しいガラス目玉が印象的で、ドキッとするほどでした。大人はこの絵本に深い哲学的な世界を感じるでしょう。でも、子どもたちはどんな風にうけとるのでしょうか？

『ばばあちゃんの クリスマスカザリ』



さとうわきこ 作
410 円

今年のクリスマスはどんな風にやろうかな？って思っていたら、この絵本を参考にしてみたらいかがでしょう。なんだか私にもできそうって思えるクリスマス飾りばかりです。

『かげ』



スージー・リー 作
1470 円

横長の絵本を開こうとして「あれ…」。まずそこから驚かされます。見開きの絵本が、一方が現実の女の子、そして、下の部分が彼女の頭の中の世界。ときに、空想の世界が現実を脅かし、…。これは子どもと一緒にあなたも十分に楽しめる絵本です。そして、さらに空想の世界を掘りたいかがでしょうか？文字がないゆえに空想の世界はどんどん広がります。

『ココロのヒカリ』



谷川俊太郎 文 / 元永定正 絵
1470 円

「もこもこ」のコンビのおふたりですから、期待するなっていうほうが無理ですよ。すごく期待しました。私はまだ人生を深く生きていないからでしょうか。ココロのヒカンは射し込んではいませんでした。

『クリスマスの ちいさなおくりもの』



アリスン・アトリー 作
840 円

病気のおかみさんとふさぎこんでるお父さんに代わって、ねことねずみとくもからのすてきなクリスマスプレゼントです。

「はじっこ」から・・・2011年2月

寒いのは嫌いです。

でも、空気が澄んでいて、星もきれいです。

先日久しぶりにオリオン座を見つけました。何だか旧友に会ったような気分でした。満月もキーンとした冷たい夜空にくっきりと浮かんでいました。

寒いけど、何もかもが澄んで美しく見える冬もいいなあ。

そう思いながら布団にもぐり込みました。

『パンツの はきかた』

パンツの はきかた



岸田今日子 作／佐野洋子 絵
840円

昨年11月5日佐野洋子さんが亡くなりました。
(そう、岸田さんも。もう、ふたりともいないんですね。)

この「パンツのはきかた」は、2007年5月号の「こどものとも年少版」の月刊誌でした。

その折込付録に、佐野さんが「今日子さん ありがとう」と、亡くなられた岸田今日子さんとの絵本づくりの思い出の一文を寄せていました。

岸田さんに絵本づくりを依頼されてまもなく、岸田さんが入院してしまったことや、病室の岸田さんを見舞い、当時すで

にがんに侵されていた佐野さんが「私、死ぬかもよ」と言ったら、岸田さんが静かに涙を流していたこと。「パンツのはきかた」の絵を「私でもいいの」って言ったら、「いいのなんて」と一生懸命にこたえていたこと。岸田さんのためにとにかくあつという間に一生懸命描いたこと。品のいい岸田さんが子ぶたは嫌かもと心配だったこと。

そんな大切な思い出のひとつひとつを、岸田さんに寄せていた佐野さん。

そして、佐野さんももう、いなくなっていました。

その「パンツのはきかた」がハードカバーとなって、再登場です。

ピンクのこぶたのがおすまして立っています。

「パンツはね」

と、いかにもの表情でパンツをはこうとするこぶた

「はじめにかたあし」

と、ゆっくり教えるようにはこうするこぶた

「いれるでしょ」

と、思わずころんと転がってしまい、恥ずかしそうなピンクのまん丸こぶた。

「それから もう かたつぽいれるでしょ」

と、おすましこぶた。

片足づつ入れて、立ち上がって、パンツをあげて・・・の一連のなんでもないパンツをはくという動作が、それはもう、可笑しくらいに一生懸命で、楽しくてユーモラスに描かれています。

そして、落ちもしっかり用意されています。

(さすがのおふたりです。)

しかも後の扉には楽譜付。

歌を歌いながら、もう一度、いや、何度でもパンツをはいてみましょう！

とにかく、愛おしくて愛おしくて仕方のない、こぶたちちゃん。

思わずぎゅっと抱きしめたくります。

『くまの コードリー まいごになる』



B. G. ヘネシー／文 ジョディー・ウィーラー／絵
1470円

「くまのコールテンくん」の続編が出たらいいよと言われ、探していました。表紙に「ドン・フリーマンのキャラクターにもとづく物語」とあります。許可を得てドン・フリーマンの作品からアイデアを抽出して作られたようなのです。一目みただけでどうみても「コールテンくん」ですもの。

コールテンくんの兄弟のようなコードリーです。

『いもしよって』



井上洋介 作
410円

おじいさんが大きなお芋を買いました。(ありえないような大きさ。でも井上洋介ですものね)重いので休んでいると自転車に乗った女の子が、補助輪を付けてくれました。(こうるかあ)ねずみが出てきて、かじらせてといわれ、少し食べられてしまいました。(やつぱり)

いちいち一言いれながら井上ワールドにはまっていた。

「ぐるぐるばなし」のようなお話でした。

『茨木のり子の家』



茨木のり子 著
1890 円

何だか他人のプライバシーを覗きみたいなちょっと後ろめたい気持ちで手に取ったのですが、自筆原稿「恋唄」を読んでやっぱり買ってしまいました。
家のあちこちに死してなお生き続ける彼女の気配に、改めて見入ってしまいました。

『1ねん1くみの1にち』



川島敏生 写真・文
1680 円

新しく学校という世界に飛び立つ君に、元気で明るくなんて望みません。ただ幸せな出会いがありますように。
1年生のおしゃべりが聞こえてきそうなそんな本でした。学校の様子が少しみえてきます。

『シモンのアメリカ旅行』



バーバラ・マクリントック／作 福本友美子／訳
1680 円

『シモンのおとしもの』の続編の探し絵絵本です。
あわてもののシモンが色々な物を落としてしまうので、見つけるのはちょっと大変。
よーく見てください。絵も気に入ってます。

『ぶた にく』



大西暢夫／写真・文
1680 円

当たり前のように食べている豚肉が「命なんだぞー」と叫んでいるような本です。食べる時はおいしいと思って食べるだけけど、もっともっと感謝しなくちゃね。人間のために(本当に人間のためだけに)生まれ、豚肉となって一生を終えるブタさんに、あたしは申し訳なくなってしまいます。子どもと一緒に手にとってほしい一冊です。

『おそい はやい ひくい たかい NO.59』

ジャパンマシニスト社(1260円)

隔月で出ている雑誌です。
今回の特集は「高けりやいいの？ 低いとどうなる？ 「自尊感情」を育むって！？」です。
近頃よく聞く「自己肯定感」とか「自尊感情」。日本人は低いって言われているようですが、そもそも「自尊感情」ってなんでしょう。
この『おそい はやい ひくい たかい』はすぐに答えを求めたがる人には不向きな雑誌ですが、私ははすごーくお勧めです！！トロールにはバックナンバーもあるので、ぜひ手に取ってください！

『たくさんの ドア』



アリスン・マギー／文 ユテウン／絵 なががわちひろ／訳
1365 円

『ちいさな あなたへ』のアリスン・マギーの最新作。

「きょうも あしたも あなたは たくさんのドアを あけていく その むこうに たくさんの あたらしいことが まっている あなたは どんなひとになり いったい どこへ いくのだろう どうやって こたえを みつけて いくのだろう・・・」
子どもたちの未来につながるたくさんのドア。
新しい世界に飛び立つ人にプレゼントにいかがですか？

「はじっこ」から・・・2011年3月

わあっ、もう三月。
いつの間に1月と2月は過ぎていったんだろう。
性分で、目先のことしか考えられなくて、せいぜい明日のことぐらいまでしか考えていないのですが、それならば今、目の前のことくらいちゃんと見ろよ！と思うけど、その目の前のこともちゃんと見られなくて、何だかいつも、上の空です。すみません。決して、春のせいではないと思うのですが・・・。
先日、ふきのとうを採ってきたので、早速ふきのとう味噌を作りました。おいしかった！

『世界を、こんなふうに見てごらん』



日高敏隆 著
1365 円

1年前に出た本ですが、動物行動学者の日高氏が動物や人間を見るときヒントをまとめたものです。とても大切なことがたくさん書いてあります。しかも、わかりやすく。

はじめにこんなことが書いてありました。

「いきものとおしゃべりするには、観察するのがいちばんだ。こどものころ、ぼくは虫と話がしたかった。おまえどこに行くの。何をさがしているの。虫は答えないけれど、いっしょうけんめい歩いて行って、その先の葉っぱを食べ始めた。そう、おまえ、これが食べたかったの。言葉の代わりに、見て気がついていくことで、その虫の気持ちがわかる気がした。すると、かわくなる。うれしくなる。それが、ぼくの生き物を見つめる原点だ。」そして、こんなことも書いてありました。

「人間と動物の違いは死と美を知っているか否かにあるということ。」対象の動物を観察しつつ、常に人間とは、を問いつけた日高氏。「ぼくは、真実とか真理という言葉が嫌いだったのだから。そういうものがほんとうにあるだろうかと、若いころから疑問に思っていました。真理を探究しているなどと聞くと、かえって真理という言葉をつけたものが嫌いになったりするくらいだ。真理があると思っているよりは、みなイリュージョンなのだと思います、そのつもりで世界を眺めてごらん下さい。」

かたわらにいつも、これはイリュージョンだという悟性をもつこと。」人間はみな自分の脳のイリュージョンを生きている。だから、世界を自由にイリュージョンすればいいけど、結局はさじ加減だと思うと、書いてありました。

それにしても、この本は面白い。これからの少年少女や大人のために書かれたこの本を、プレゼントしてあげたらいいかながらう。貰ってすぐのには面白いと思えなくても、きっとどこかで、喜んでもらえるような気がするのです。本の造りも気に入っています。傍らに置きたい本でした。

『みつこととかげ』



田中清代 さく
840 円

1999年8月号のこどものともの中年版でした。『トマトさん』の田中清代さんの作品。なんとあのトマトさんも登場するこの「みつこととかげ」。ちょっと怪しげで、ふしぎな世界。きつと田中さんは爬虫類が好きなのではないでしょうか？私は決して、爬虫類は好きではありませんが、田中さんの作品は大好きです。

『みてよ ぴかぴかランドセル』



あまみきみこ／文 西巻茅子／絵
1260 円

かこちゃんも、もうすぐ1年生。赤いランドセルを買ってもらったので、誰かにみせたくなりました。そこで、よもぎのはらに行ってみると・・・。もうすぐ小学生の子にとってランドセルは特別のものです。そんなランドセルにうれしさがたくさん詰まっています。

『うずらのうーちゃんの話』



かつやかおり／作
1260 円

ぼくは幼稚園からうずらをもらってきました。ところがうちに連れて帰ってくると、狭いところが嫌いなのかかごの中で大暴れ。水をひっくり返したり、えさを撒き散らしたり。暴れん坊で、貫禄たっぷりのうーちゃん。ある日、猫に足をかまれてしまいます。さあ、大変！うーちゃん大丈夫かなあ。真っ赤な表紙の絵本です。

『妖怪横丁』



広瀬克也・作
1260 円

おつかいを頼まれた男の子。迷い込んだ妖怪横丁には、一目眼鏡時計店やのっぺら美容室、ぬりかべハウジング、ロックロックビ楽器店などなどおかしなおかしな店ばかりなのです。どんどんでてくるおかしな妖怪たちに笑っちゃいます。

『はるがきた』



ジーン・ジョン／文 マーガレット・ブロイ・グレアム／絵
こみやゆう／訳 1365 円

芽生えの季節がやってきても、なかなか春は顔をだしません。そこで男の子が春を待ってないで、春にしようよと提案します。そこで、街じゅうに春の絵を描きました。ところが……。こんな風にみんなで春を楽しめたらいいですね。

『うちゅうじんはパンツがだいすき』



クレア・フリードマン／文 ベン・コート／絵 中川ひろたか／訳
1365 円

宇宙人は実はパンツが大好き！らしい。ときどき地球に来ては、パンツで遊んでいるらしいのです。知ってた？

『あいうえおおきなだいふくだ』



たるいしまこ／作
1260 円

「あんこがたっぷり おおきな だいふく
いきなり どーんと もりのなか
うさぎが こどものおみやげに……」
・ ……「あ」から「ん」まで繋がる楽しいお話

♪♪♪ さて、さて楽しいお知らせです。 ♪♪♪

実は、すてきなギタリストに出会いました。「トロールで演奏して」と言ったら「いいよ」と返事。そこで即興の会が始まります。

4月20日・水曜日 午後1時

野津昌太郎 (ギター)

田中ゆう子 (歌い手)

すてきなギタリストがもうひとりすてきな歌い手を連れてきて、演奏会が行われます。「これはのみのぴこ」も楽しい唄にのせて、唄ってくれます。

いらしてください
詳しくは トロールまで

トロール 東村山市野口町 1-11-4 TEL042-392-5304

<http://www.troll-ren.jp>

文責・西山

「はじっこ」から・・・2011年4月

3.11からの日々は風景がガラッと変わってしまいました。子どもたちもいつまでも続く余震に、不安を感じているのではないのでしょうか？そんなときはぎゅっと抱きしめて、いつもよりゆっくりと絵本を読んであげてくださいと、落合恵子さんが言っていました。でも大人だって不安で、そんな余裕がない時もあります。そんな時は無理しないで、少し落ち着いてから、読んであげてくださいね。

さあ、もう、春ですよ！

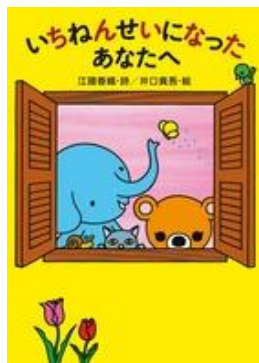
『ちいさなちいさなおんなのこ』



フィリス・クラシロフスキー 文/ニノン 絵/福本友美子 訳
1155円

ばらの木よりもちいさくて、台所のいすよりもちいさくて、お母さんのお針箱よりもちいさなちいさなおんなのこ。垣根の向こうは見えないし、ドアの取っ手も届きません。ところがおんなのこはある日、金魚鱗にも手が届くようになり、バラの木よりも大きくなりました。ドアのとっても届くようになり、垣根の向こうも見えるようになりました。少しずつ大きくなって、世界が広がっていきます。いろんなことができるようになり、弟も生まれました。大きくなることのうれしさと、できることによるこびが絵本の中に溢れています。黄緑色とピンクの二色刷りの愛らしくて春らしい絵本です。とても58年前にニューヨークで初版が出された本とは思えないほど新鮮で、プレゼントにおすすめの絵本です。

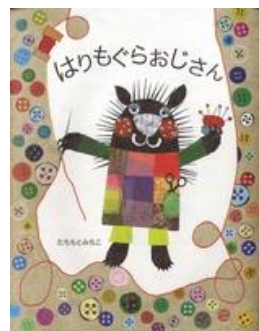
『いちねんせいになったあなたへ』



江國香織 作/井口真吾 絵
1260円

雑誌「小学一年生」に連載されてた詩が絵本になりました。一年生に向けて江國香織さんが書かれた詩は時に繊細で、時に暖かく、深い言葉の世界へと誘ってくれます。でも、例えば、これを一年生になった子にプレゼントしたら、喜んでもらえるかなあ・・・とちょっと心配になりました。

『はりもぐらおじさん』



たちもとみちこ 作
1260円

はりもぐらおじさんは仕立て屋さんです。一年に一度のおまつりに森のみんなはおしゃれをして出かけます。そこでおじさんに洋服を作ってもらおうとやってきます。さあ、どんな洋服になるのでしょうか。カラフルでたのしい絵本です

『ばあちゃんのおなか』



かさいまり 作/よしながこうたく 絵
1155円

ちょっと前の絵本です。帯に「たのしくて おもしろくて じーんとくる」と書いてありました。本当にその通りの絵本です。でも、ずるいなあ。「もうちょっと ひねってよ」とへそ曲がりの私は思いました。

『とこやにいったライオン』



サトシン 作/おくはらゆめ 絵
1155円

たてがみがボサボサに伸びて、前も見えないほどになったライオン。せつかくの男前も台無しです。そこで、床屋に行ったのですが、たいへんなことに…。思わず吹き出すおかしさです。おおらかなおくはらゆめさんの絵も楽しい一冊です。

『落語えほん しまめぐり』



桂文我 作/スズキコージ 絵
1575 円

上方落語の「しまめぐり」が桂文我とスズキコージの手にかかると奇想天外痛快活劇風になって、落語の世界とはまた別な世界が楽しめます。これは絶対声に出して読んでみてください。文章にリズムがあってどんどん読みたくなってしまいます。ぜひ、落語のほうも聞いてみたいですね。

『ほんとのおおきさ なかよし動物園』



小宮輝之/監修 尾崎たまき/写真 柏原晃夫/絵 高岡昌江/文
1575 円

動物園でさわれる動物が勢ぞろい。やぎ、あひる、うさぎなど身近な動物からアルパカやラマ、ロバなどつぎつぎ登場。ほんとのおおきさシリーズの5作目です

『ふしぎなまちのかおさがし』



阪東勲 写真・文
1365 円

著者はグラフィックデザイナーであり、「街の顔探し」の達人。何気なく歩いている街も良く見ると、「かお」がいっぱい。気づかないだけで、実は街の中のだくさんの「かお」に人間が見られているのかもしれない。そんな風に思えてきました。

『あつまれ！ 全日本ごとうちグルメさん』



おおのこうへい 絵/ふくべあきひろ 文
1575 円

年に一度ごとうちグルメさんが集まる日。日本全国からおいしい食べ物がたくさんやってきて、おやつや食材にも変身です。おかしなダジャレ満載の楽しくておいしそうな絵本です。ついでに都道府県も学べます。おかあさんも喜びそう。

『へんな かお』



大森裕子著
1050 円

「ねえ ねえ みててね へんなかお べえ——」とくまが変な顔。おしまいにミラーシートがついています。どんなへんな顔が写るかな。

『みても、いい？』



礪みゆき 作/はたこうしろう 絵
945 円

気が弱くてやさしいうさぎが「みてもいい」とらんぼうもののできつねにこいします。だれかがいるっていいですね。

「はじっこ」から・・・2011年5月

風薫る5月なのに、風が放射能を運んでくるようで、風を「感じる」ことができません。原発は混迷の色を濃くしています。25年たったチェルノブイリでも今だに原子炉内に核燃料が残り、問題は解決していないのです。ということは福島第一原発もこのあとどれだけの時間がかかるのでしょうか？

『ここがぼくのいるところ』



ジョアン・フィッツジェラルド 作 / 石津ちひろ 訳
1200 円

「自分」に気づき始めるのはいつ頃だったでしょうか？
ぼんやりと「自分」を考え初め、周りのことも見回してみたのはいつ頃だったでしょうか？

「ちきゅうのうえに くにがある
くにのなかには としがある
としのなかに まちがあって
まちのなかにみちが……」と自分に近づいていって、
また、視点が広がっていく。
自分と世界の繋がりを静かに語っています。
日々の生活がそこにはあります。
やさしいイラストのステキな絵本です。

『ぼくもおにいちゃんになりたいな』



アストリッド・リンドグレン / 文 イロン・ヴィークランド / 絵
石井登志子 / 訳 1470 円

赤ちゃんはかわいいけれど、ちょっとうるさい。パパやママは赤ちゃんの方にかかりっきりになっちゃうし、お兄ちゃんは複雑な心境です。妹や弟ができた子どもの気持ちをあたたかく描いています。

『100万羽のハト』



つかさ おさむ 作
945 円

あとがきに「向田邦子さんのことばから生まれた絵本」と書いてありました。つかだおさむさんは向田邦子さんが好きなんだらうなあ・・・なんて思いました。余計なことですが。

こどものゆめのお話だけど、平和を願うゆめのお話で向田邦子さんのゆめのお話でした。

『やぎのしずかのたいへんなたいへんないちにち』



田島征三 作・絵 1365 円

やぎの「しずか」の絵本ができたのは36年前。でも、田島さんのなかにはず一つと「しずか」が生き続けていたのです。やぎのしずかに双子の赤ちゃんが生まれました。しずかは赤ちゃんにミルクをあげるために夢中で草を食べてたら、バツタの足をかんでしまいました。さあ、大変！！バツタは怒って、しずかの顔にしがみつきました。あわてて今度は茂みの中のガマガエルを踏みつけてしまいました。・・・とんでもない一日になってしまったしずかですが・・・
おかしくて、楽しくて、田島さんのしずかへの愛情あふれる一冊でした。おすすめ絵本です。

『くまのごろりん まほうにちゅうい』



やえがしなおこ 作 / ミヤハラヨウコ 絵
1050 円

くまのごろりんはある日、やっかいな魔法にかけられ、ありよりも小さくなってしまいました。
さあ、くまのごろりんはどうなるのでしょうか？

『穂村弘 ぼくの宝物絵本』



穂村 弘著
1680 円

この本を読んで、「大人になって絵本を楽しむのって、こういうことか」と関本(トル代表)が言っていました。所謂絵本論でもなく、何かの役にたつ絵本が載ってるわけでもなく(失礼)、穂村弘が大事にしてきた絵本が載ってるだけなんだけど、それがいいんですねえ。(と、勝手に思っているのですが)絵本の見方が、なんてったって面白い！！評論家ではなくて、面白がってみているのがいいですね。そして、いつの間にか奥深い絵本の世界へ誘ってくれる。

福音館の『かばくん』(岸田衿子／作 中谷千代子／絵)については……。外国の食べもの、例えば中国やベトナムのお菓子を食べたとき「ん？」と思うことがあって、甘いんだけどその中にいろいろ「よくわからない変さ」があるようで、その「味」に戸惑うことがあるが、この『かばくん』もそれに近いものがあるといっているのです。どうしてかはこの本を読んでください。

『てぶくろ』(エウゲーニ・M・ラチョフ／絵 福音館)の「もうひとつの世界」の話や酒井駒子の世界や木葉井悦子の『みずまき』について、『ねないこ だれだ』の面白さ。他にもたくさん絵本をとりあげ、楽しませてくれます。まさに穂村弘の世界と絵本の世界が交歓しているようで、大人の楽しみ方ってこういうことかと、愉快になります。

絵本を「買って買って買まくると、夢のように楽しいのだ」と帯にあります。みんなで、実行しましょう！！

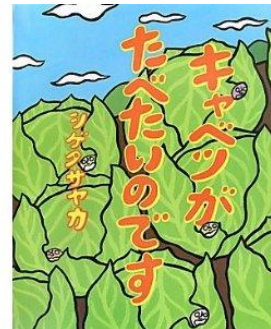
『もりのおぼけ』



片山 健／作・絵
840 円

弟と散歩に行った「ぼく」は、森の中まで競争しました。ところが森の中は薄気味悪くて、何か居そうです。……。ところでこの絵本は、1969年11月の「こどものとも 年中版」でした。42年前の片山さんの作品です。今の作品と比べてみるのも楽しいですよ。

『キャベツが たべたいのです』



シゲタサヤカ 作
1365 円

あおむしの頃に食べていたキャベツを食べたくて仕方がない5匹のチョウチョのお話です。春の光の中をひらひらと飛ばきれいなチョウチョのイメージとは違うんだか胡散臭いチョウチョたちですが、予想外の展開に楽しくなります。

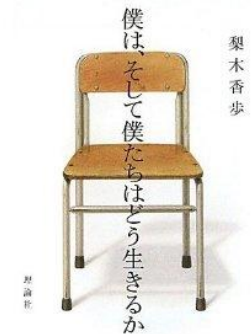
『まだまだ つづきがあるのです』



カンタン・グレバン作／ふしみみさを 訳
1575 円

ある暑い日に太陽をたっぶり浴びたオレンジが、枝からぽとんと落ちました。ところが、このオレンジが引き起こしたとんでもない事件の数々。個人的には絵がいいですね。愉快的な展開なのでよみきかせにもいいかもしれません。

『僕は、そして僕たちはどう生きるか』



梨木香歩 作
1680 円

あの理論社から出ました。期待も膨らみます。梨木さんは裏切りません。

「はじっこ」から・・・2011年6月

この夏は節電やエコに励まなければなりません。とてもとても大事なことです。すごくすごーく。それは分かっているのですが、でも、どうもみんなが同じ方向を向いて励んでいると、つい、別な方向を向きたくなる自分が居ます。すみません。そんな時にこの本が現れました。

『たくさんのふしぎ 2011年6月号』

エネルギー』



池内 了 文/スズキコージ 絵
700 円

「エネルギー」。あまりにも聞き慣れたこの言葉にとくに興味もなかったのですが、書き手(描き手)に引かれて手に取りました。宇宙物理学者の池内了さんが、とてもわかりやすくエネルギーについて系統立てて教えてくれています。そこにスズキコージさんの絵がエネルギーいっぱいエネルギーを「表現」しています。実はとても基本的で大切なエネルギーの話。これを読むと、知ったかぶりして、誰かに教えたくくなります。ちょっと自慢げにエネルギーの話をしてみてください。今まさに、ぴったりの時。エネルギーについて考えてみましょう！

『この絵本が好き！2011年版』



1260 円

2010年に刊行された絵本の中でベスト26点が選ばれました。国内14点と海外翻訳12点の絵本。この本をみると、絵本はもう、子どものものだけではないんだなとつくづく思います。個人的には若い作家さんのいまいあやのさん、たしろちさとさん、みやこしあきこさん、シゲタサヤカさんが気になる作家さんたちです。今後の活躍に期待します。

『どっちかな』



ママダミネコ
1050 円

「まるいのどっち」とりんごとアルマジロを比べてみると、そりゃあ、りんごと思うけど、そうは問屋がおろさない。さあ、どっちでしょう？ 思いがけない展開に子どもたちはどう反応するのでしょうか？ ちょっと意外、でも納得。思わずにんまり、の繰り返しでした。

『エイモスさんがかぜをひくと』



フィリップ・C・ステッド 文/青山南 訳
1470 円

実は1年位前に出ていました。動物園で働いているエイモスさんがかぜをひいて仕事を休んだら……。やさしい色使いの穏やかで、しずかな時間の流れている絵本です。ユーモアとペーススが漂い、疲れている人はどうぞお薦めです。

『ハスの花の精リアン』



チェン・ジャンホン 作
1890 円

中国出身でパリに移住している画家チェン・ジャンホンの3冊目の作品です。(前作『ウェン王子とトラ』、『この世でいちばんすばらしい馬』)中国の伝統的な技法の墨絵に朱色や緑をつかって、幻想的な世界をうみだしています。人間の持つ愚かさや日々の暮らしの尊さが幻想的な世界の中で美しく描かれています。

『この世界いっぱい』



リズ・ガートン・スキャンロン／文
1575 円

海、空、雲。小高い丘の上のふたりのきょうだい。
砂浜であそび、はたけを耕し、木に登り、移ろい行く自然
の中で季節を感じ、世界を感じる。風を感じる。人々の温もり
を感じ、生きる喜びを知る。

パンの焼ける匂い。こおろぎが鳴き、カーテンを閉め夜の訪
れを待つ。暖炉の暖かさ。やがて静けさが世界を包む。

日々の営みのありがたさ、そして優しさ。

絵本の中から風が吹き、世界中のあなたとわたしに語りかけ
ています。今日から明日へのつながりと人々のつながりを。

(こう書くとちょっと臭くなってきますが…)

「聴く、匂う、見る。

すべてのものが

この世界いっぱい すべてのものが

すべてのものが あなたとわたし」

絵本だからできる世界のひろがりや、感じさせてくれます。
風や空気や匂いや人々のざわめきが伝わってくるようです。

ただひとつ残念なのは、この絵本はアメリカなのです。

日本の子どもたちの生活とは微妙に違うのです。

日本版があったらいいですね、本当に。そしたら、より身近に
感じられえることがたくさんあると思います。

「誰か作ってくれないかな。日本版の『この世界いっぱい』

と、関本(トルル 代表)がいました。

『これは本』



レイン・スミス 作／青山 南
1365 円

パソコンが得意なロボくと本が大好きなサルくん。
サルくんが本を持っていると、「どうやって、スクロールする
の?」とか「ブログはしてる?」とか「マウスはどこ」と聞いてき
ます。「これは本だから」と答えるのですが、…。
でも、ロボくん、本の面白さに気づいたようです。

『たかこ』



清水真裕 作／青山友美 絵
1365 円

転校生「たかこ」は、十二単を着た可笑しい女の子。「いとを
かし」とか「いとほづかし」とかなんて、変な日本語を使いま
す。しばらくするとみんなはたかこのおかしさが気になりました。
でもね、ある日遠足に行ったとき、雷や雹がふって
きて、たかこに救われます。こんな子がいたらいいね!!

『コウモリのルーファスくん』



トミー・ウンゲラー 作／いまえよしも 訳
1365 円

夜の世界でしか生きていなかったコウモリのルーファスくん
は、まぶしいくらいの色に溢れた昼の世界をみてしまいました。
ちょうど誰かが忘れていった絵の具があったので、自分
の身体に色を付けてみました。ところが…。
ウンゲラーの初期の作品のようです。

『コックのぼうしはしている』



シゲタサヤカ 作
1470 円

嘘つきコックは嘘ついてずる休み。ところが全てを見ていた
帽子は、だまっちはいられません。
街のコックさんシリーズ新刊です

トルル 東村山市野口町 1-11-4 TEL042-392-5304
<http://www.troll-ren.jp> 文責・西山

「はじっこ」から・・・2011年8月

梅雨が戻ってきたようなこの頃です。
夏の陽射しもちょっと恋しいこの頃です。
もうすぐお盆です。
トルルの夏休みは12日から16日までです。

ところで・・・

ギター教室はじまる！！

トルルのお客さんにギターの先生がいます。
そこで、ギター教室が始まりました。でも、なかなか時間が作れないのですが。拙いギターの音色が聴かれるかもしれません。
ブルースを弾きたい！と秘かに願う「ほんやのおじさん」がいます。

また、こんな「ほんやのおじさん」もいます

「こどものとも年少版8月号 ほんやのおじさん」



ねじめ正一 文／南 伸坊 絵
410円

ぼくが絵本をよんでると、いつもちょっかいを出して来るほんやのおじさん。サルの絵本を見ていると、サルみたいに柱を登ったり、クジラの絵本を見ていると、クジラみたいにやかんの水を口から吹いたり・・・
こんなおじさんがいたら、楽しいなあ。
遊び心たっぷりのおじさんです。

『ロージーのモンスターたいじ』



フリリップ・ヴェヒター作／酒寄進一訳
1575円

うさぎのロージーは毎晩怖い夢で目を覚まします。
なんとかしなくちゃと遊園地のモンスターハウスへと向かいます。はてさて、どうなるでしょう？

『アライバル』



シヨーン・タン
2500円

本を開いてすぐに絵に圧倒され、しかし、不思議な違和感を感じつつ、まるでサイレント映画を見ているような感覚でページを捲り、一条の光を見たような思いで本を閉じました。
絵の力に圧倒されっ放しでした。知らない町に放り込まれたような落ち着きのなさを感じながらも、ページを捲らずにいられないのは、物語の持つ力。文字がないゆえに見る者の想像力を刺激し、引き込まれていきます。
まずはとにかく、手にとって欲しい一冊です。

『そのこ』



谷川俊太郎／詩 塚本やすし／絵
1575円

子どもだからと、守られるだけの存在じゃない現実。当然のように働かなければならない現実。学校に行きたくても行けない現実。そして危険な仕事をしている子どもたちが世界には2億 1500万人もいるという現実。決して私たちとは無関係ではないのです。まずはその現実をこの絵本から知ってください。

『おたすけこびとのまいごさがし』



なかがわちひろ／文 コヨセジュンジ／絵
1575円

「おたすけこびと」シリーズ3作目。
働く車が登場し、たくさんのこびとたちが問題を解決してくれます。
かわいいけれど、頼もしいこびとたち。子どもたちに大人気です。

『おそい・はやい・ひくい・たかい』 No. 62

特集 放射能汚染のなかで大人にできる、これからのこと



ジャパンマシニスト社 1260 円

これからも延々と続くであろう原発の問題。どこまで続くか放射能汚染。次から次へとトラブル続きで、子どもたちへの影響が一番心配です。この苛立ちをどこへ向けたらいいのか？これからの生活をどう考えたらいいのか？でも、不安になってばかりもいられません。

生活を足元から見直す時なのでしょう。そして、自分の信頼できる情報を捉えなければとも思います。

そんなことを考えさせられた一冊でした。

『死ぬ気まんまん』



佐野洋子 著
1365 円

「死ぬ気まんまん」なんて、そんなこと許されないとと思うけど、豪放にして繊細であった佐野洋子は本当に「死ぬ気まんまん」だった。元気に旅立って、残してくれたたくさんのメッセージ。やっぱりすごい！！

『ぼく きこうき』



ひがしちから／作
1470 円

折り紙は得意ではないけれど、紙飛行機が大好きなせいくん。ゆっくりと一生懸命におりました。どこまで飛んでいけるかな。一緒に紙飛行機に乗ってるみたいになります。日常と非日常がすると入れ替わり、子どもたちの心を捉えます。「ぼくの かえりみち」「いま なんさい」等の作者。

『つぎのかた どうぞ』



飯野和好／作
1575 円

はたけやこうんさい一座の座員募集のお話です。なんともいろんな新人がいるもので…。

チョン チョン チョーン
チョーン チョーン チョン チョン チョン

『しげちゃん』



室井滋／作 長谷川義史／絵
1365 円

しげちゃんは自分の名前が嫌いでした。だって男の子みたいななんだから。でもね、…。

室井滋の名前にまつわる楽しいお話です。

『盆 まねき』



富安陽子／作 高橋和枝／絵
1050 円

なっちゃんのお家族はお盆になると、笛吹山のおじいちゃんとおばあちゃんの家に出かけます。親戚がみんな集まって、みんなで、おじいちゃんとおばあちゃんのお話をお聞きします。お盆はたくさんの魂が家族のもとにやってきます。

日本の家族の歴史がここに 있습니다。

TROLL 東村山市野口町 1-11-4 TEL042-392-5304
<http://www.troll-ren.jp> 文責・西山